

(1)環瀬戸内海地域における 交流状況等の話題について

①環瀬戸内海地域における観光客の状況について 資料 1-1

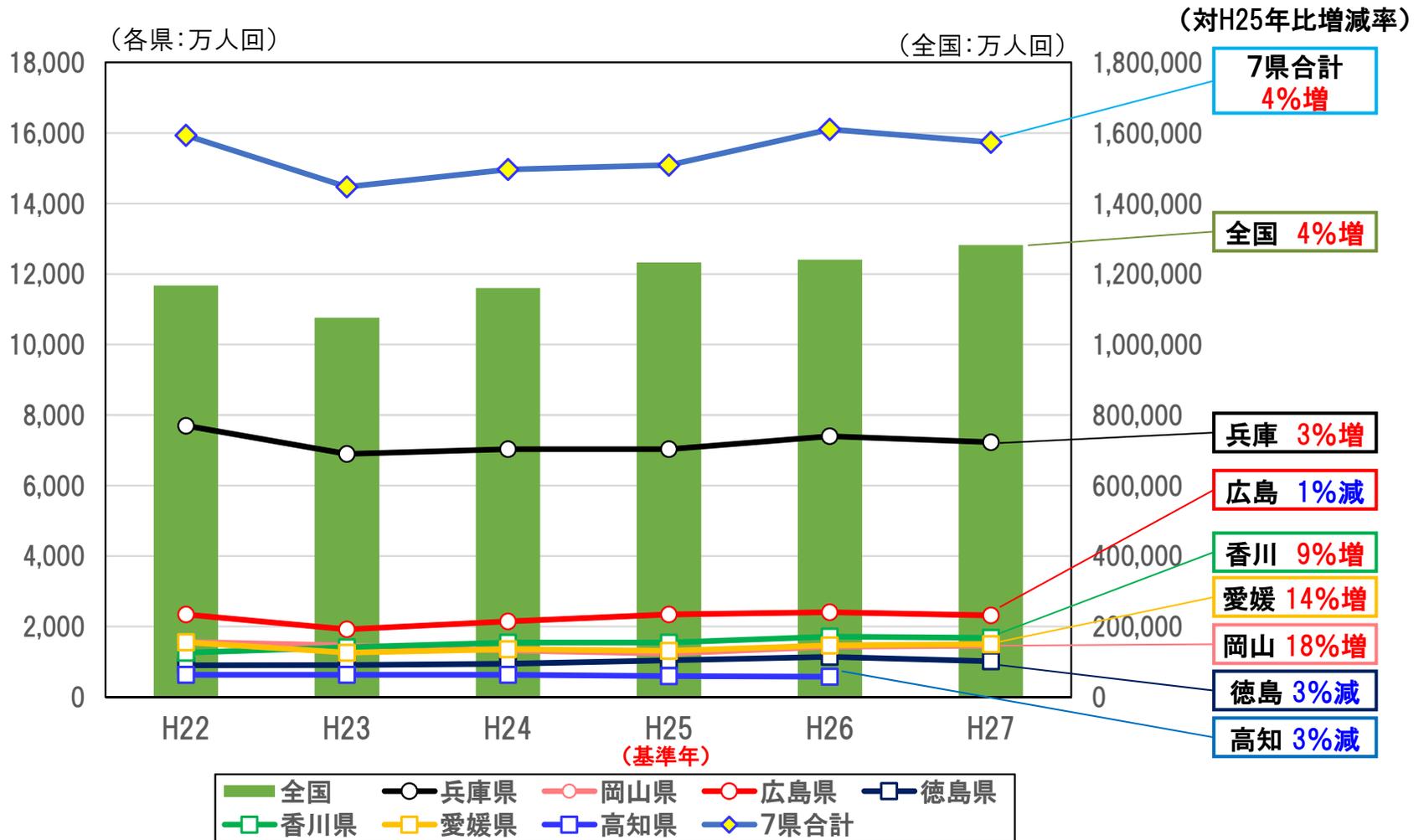
②本州四国間の交流状況について 資料 1-2

①環瀬戸内海地域における観光客の状況について

環瀬戸内海地域における観光客数の推移

○環瀬戸内海地域を訪れる観光客数はH23年以降増加傾向にあり、H27年は交流人口目標の基準年としているH25年比で4%増加。

◆観光入込客数（本州+四国：7県）



出典) 観光庁「共通基準による観光入込客統計」

注) 高知県はH27年値が集計中(非公表)のため、H27の4県合計はH26と同値とした推計値である。

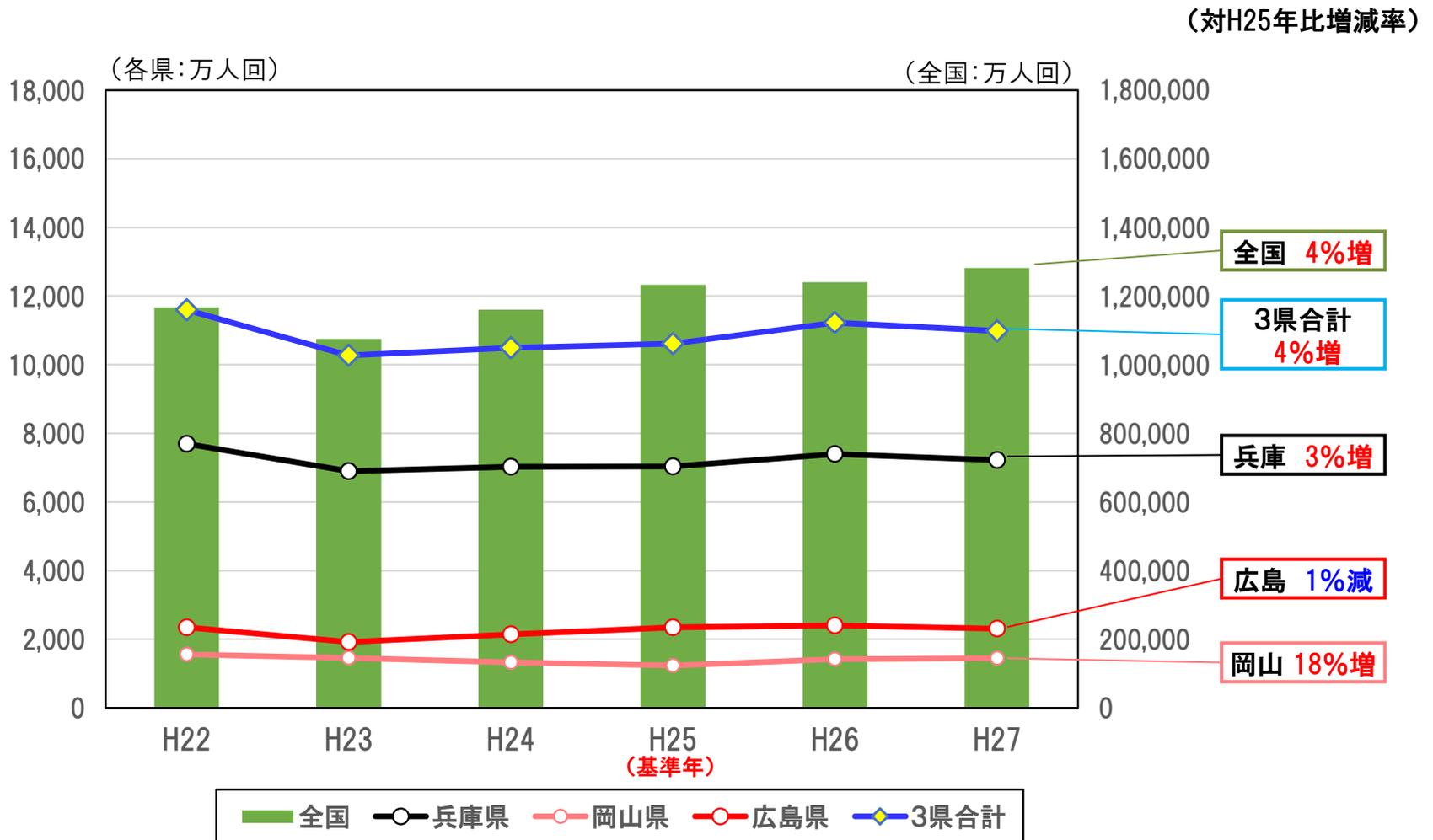
注) 集計中等のため、全国集計値より除外した県は以下の19県

(秋田県、茨城県、栃木県、埼玉県、神奈川県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、沖縄県)

環瀬戸内海地域(本州エリア)における観光客数の推移

○本州エリア(広島・岡山・兵庫)を訪れる観光客数はH23年以降増加傾向にあり、H27年は交流人口目標の基準年としているH25年比で4%増加。

◆観光入込客数(本州：3県)



出典) 観光庁「共通基準による観光入込客統計」

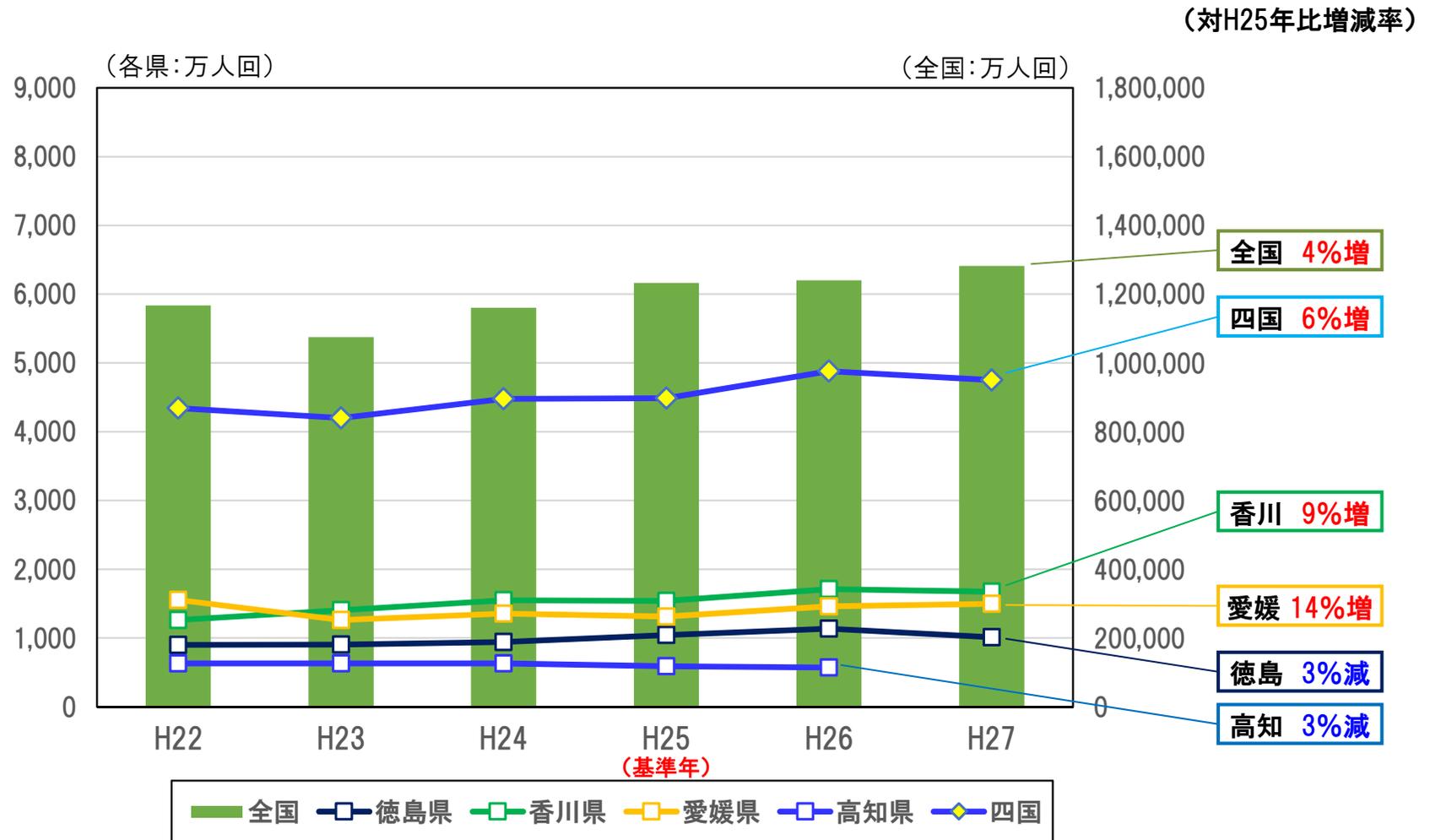
注) 集計中等のため、全国集計値より除外した県は以下の19県

(秋田県、茨城県、栃木県、埼玉県、神奈川県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、沖縄県)

環瀬戸内海地域(四国エリア)における観光客数の推移

○四国を訪れる観光客数はH23年以降増加傾向にあり、H27年は交流人口目標の基準年としているH25年比で6%増加。

◆観光入込客数（四国：4県）



出典) 観光庁「共通基準による観光入込客統計」

注) 高知県はH27年値が集計中(非公表)のため、H27の4県合計はH26と同値とした推計値である。

注) 集計中等のため、全国集計値より除外した県は以下の19県

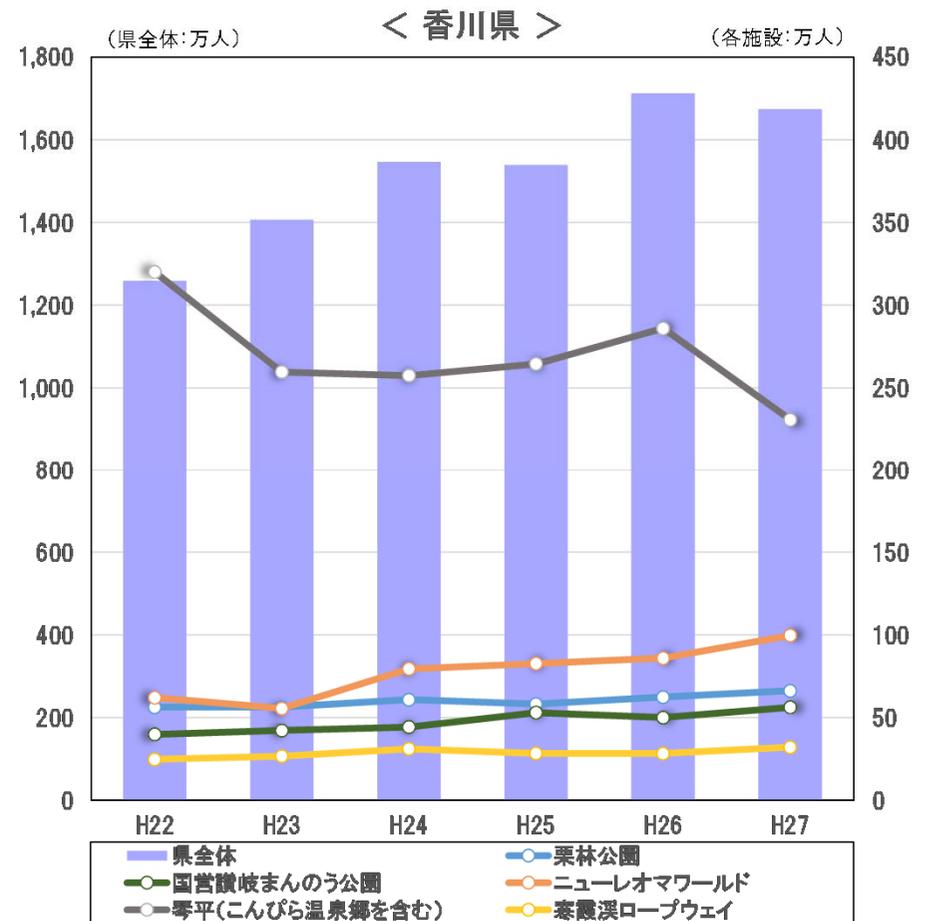
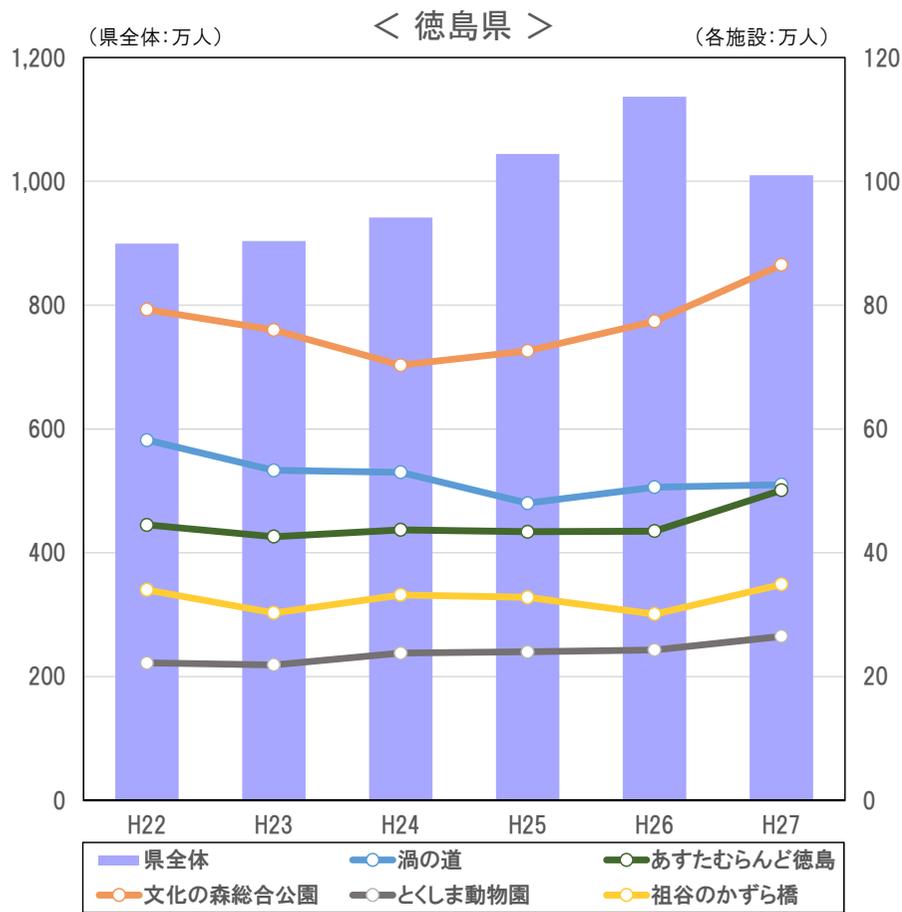
(秋田県、茨城県、栃木県、埼玉県、神奈川県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、沖縄県)

四国の主な観光地における観光客数の推移(徳島県、香川県)

- 徳島県は、H24年以降大幅な増加傾向。H27年は観光施設によっては増加しているが、県全体は減少。
- 香川県は、H23年以降、年々着実に増加。H27年は琴平の入込客減が影響し、県全体も減少。

◆四国4県の観光入込客数(徳島県・香川県)

4



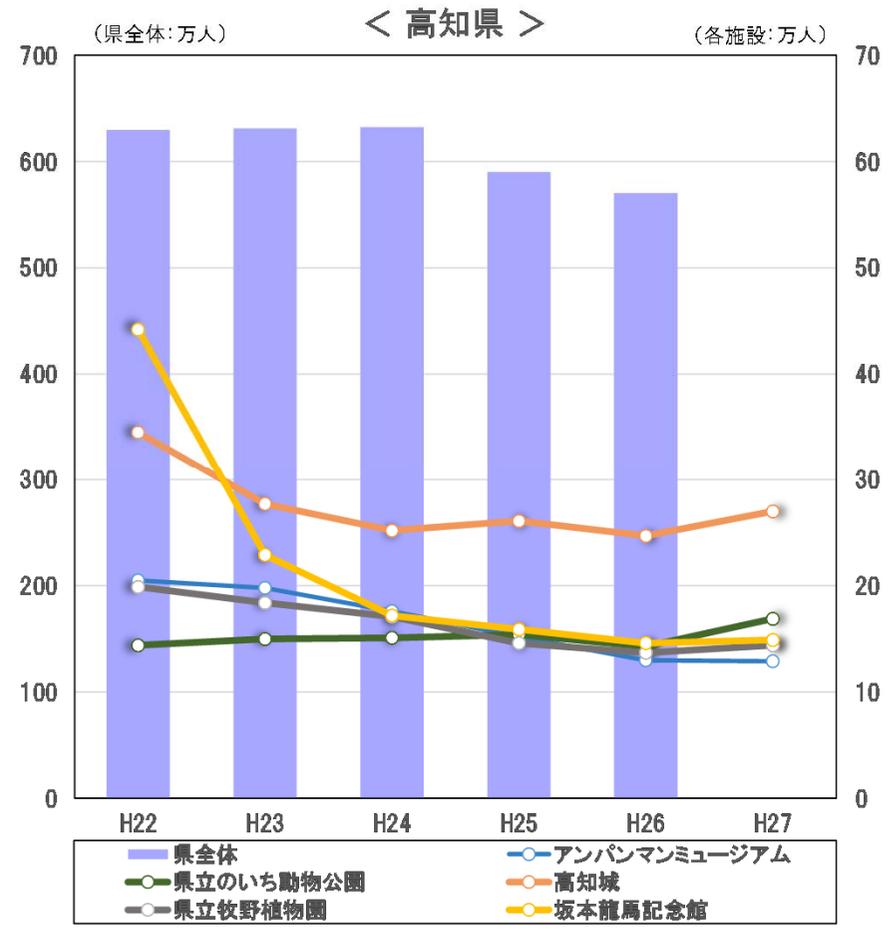
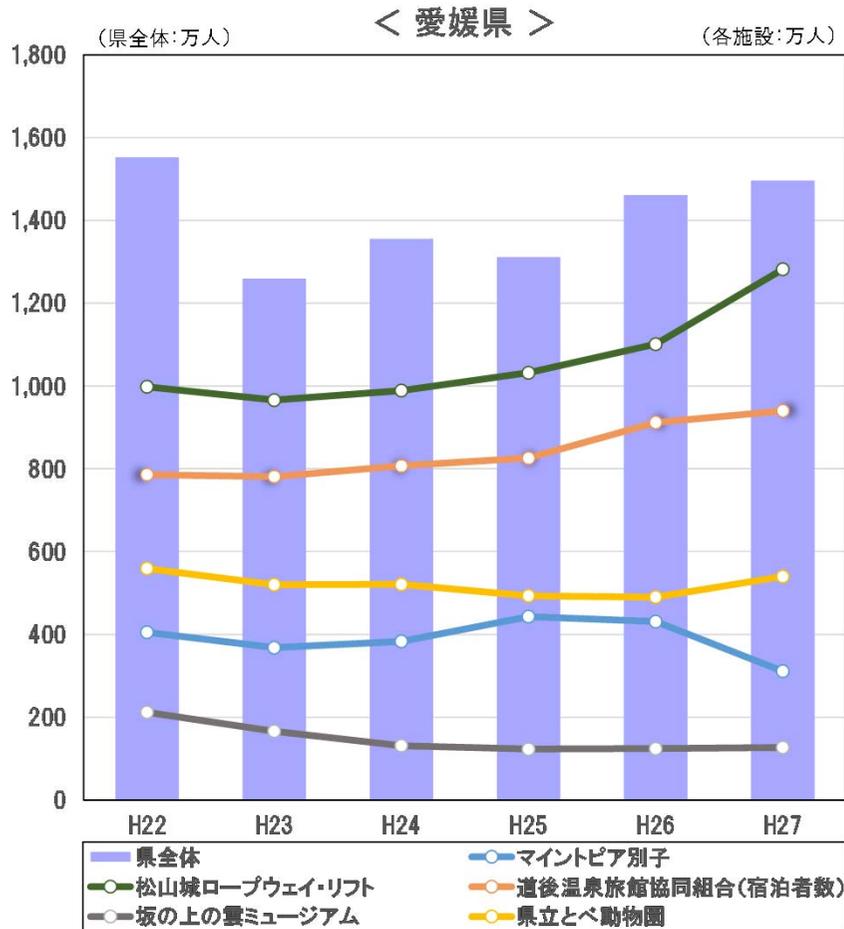
出典) 各施設の値は、四国運輸局「四国の主要観光地入り込み状況」
 県全体の値は、観光庁「共通基準による観光入込客統計」

四国の主な観光地における観光客数の推移(愛媛県、高知県)

○愛媛県は、「坂の上の雲」終了によりH23年に減少したが、以降は松山城や道後温泉が牽引して増加傾向。
 ○高知県は、H22年の「龍馬伝」ブーム以後H24年まで横ばいであったが、H25年以降減少傾向。

◆四国4県の観光入込客数(愛媛県・高知県)

5

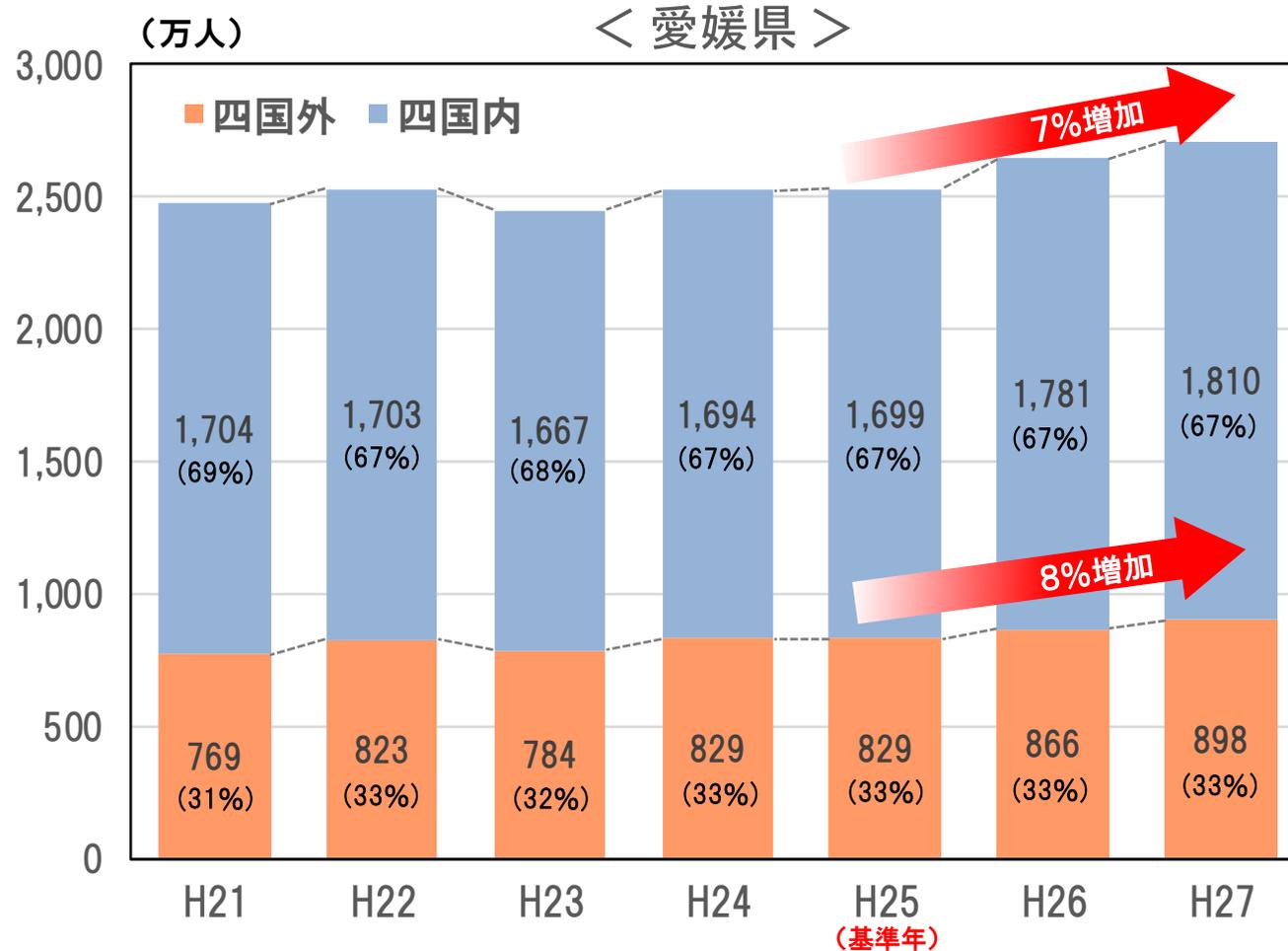


出典) 各施設の値は、四国運輸局「四国の主要観光地入り込み状況」
 県全体の値は、観光庁「共通基準による観光入込客統計」
 注) 高知県のH27年県全体値は集計中(非公表)。

愛媛県における四国内外の観光客数の推移

- 四国外から愛媛県を訪れる観光客は年々増加しており、県全体の3割程度で推移。
- H27年は交流人口目標の基準年としているH25年比で8%増加。

◆愛媛県の観光入込客数（四国内・四国外）

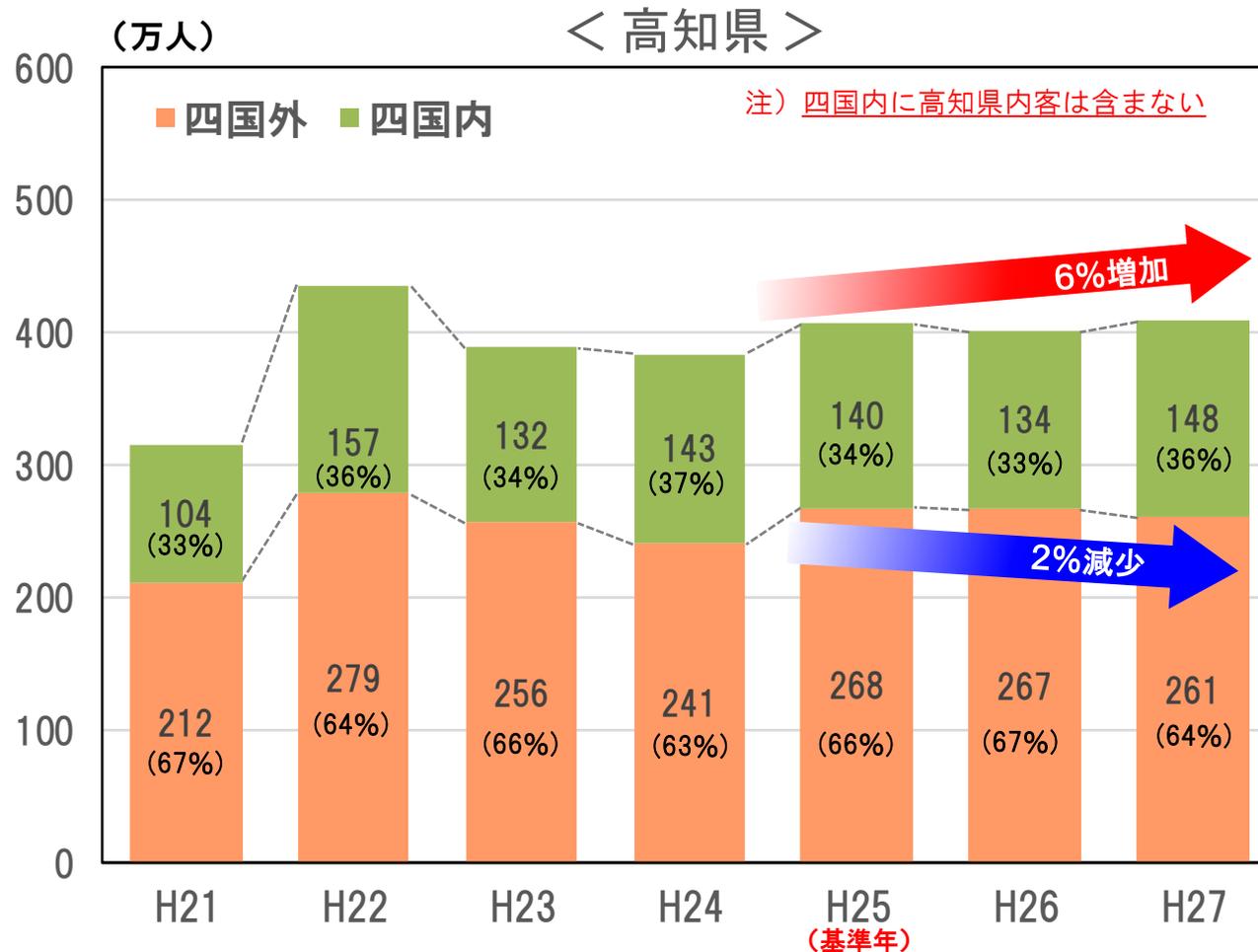


出典) 愛媛県「愛媛県観光客数とその消費額」

高知県における四国内外の観光客数の推移

- 四国外から高知県を訪れる観光客は、H22年は「龍馬伝」ブームにより、対前年度比32%増加。
- H23年は、「龍馬伝」終了により対前年度比8%減少したが、H23年以降は、H21年に対して増加傾向。
- H27年は交流人口目標の基準年としているH25年比で2%減少。

◆高知県の観光入込客数（四国内・四国外）



出典) 高知県「高知県県外観光入込・動態調査報告書」

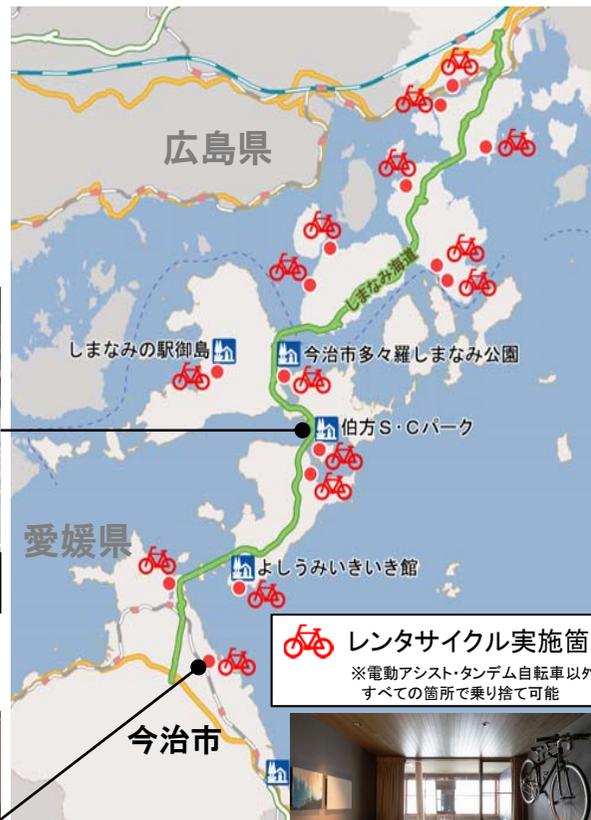
注1) 高知県は発地ブロック別入込割合を用いて観光入込客数を算出。

注2) 県内客が非公表のため、四国内に高知県内客を含んでいない。

四国地域におけるイベント例(しまなみ海道自転車道)

- しまなみ海道自転車道は、米CNNの世界7大サイクリングロードに選定されるなど、海外からも高い評価を受け、外国人観光客が1.5倍に増加。
- 隣接する今治市では、サイクリストの宿泊施設の整備が進むとともに、道の駅等でのレンタルサイクル利用が増加。

8



道の駅「伯方S・Cパーク」に設置されたサイクルスタンド



サイクリストの宿泊施設 (シクロの家)
出典:シクロツーリズムしまなみ

レンタサイクル実施箇所
※電動アシスト・タンデム自転車以外は、すべての箇所で乗り捨て可能



自転車を持ち込み可能な宿泊施設
出典: ONOMICHI U2



国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」開催(H26. 10)
サイクリストの聖地として国内外のサイクリストを誘致
“国内外7,281人参加 経済効果は約6.3億円”



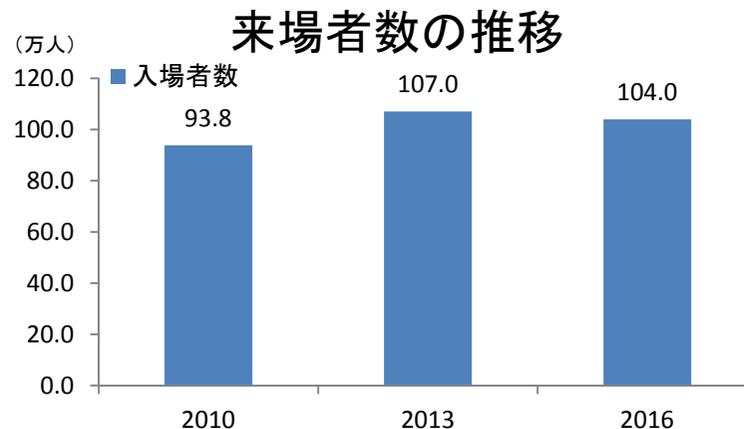
※経済効果: いよぎん地域経済研究センター資料より

四国地域におけるイベント例(瀬戸内国際芸術祭)

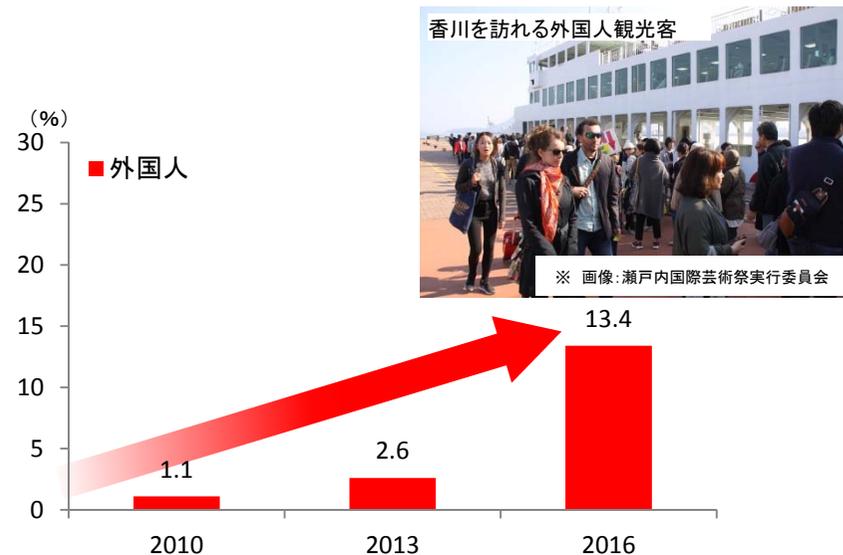
- 瀬戸内国際芸術祭の平成28年度開催の来場者数は、前回開催に引き続き100万人を越えている。
- 訪日外国人の来場者数の割合は、前回開催に比べ10ポイント以上増加。



※ 画像:瀬戸内国際芸術祭実行委員会



訪日外国人割合の推移



※出典：瀬戸内国際芸術祭2010 総括報告 (瀬戸内国際芸術祭実行委員会)
 瀬戸内国際芸術祭2013 総括報告 (瀬戸内国際芸術祭実行委員会)
 瀬戸内国際芸術祭2016 概要 (瀬戸内国際芸術祭実行委員会)

四国地域におけるイベント例(よさこい祭り、阿波おどり)

- 高知県よさこい祭りでは、県外からの踊り子参加チームが5倍に増加。
- 徳島県阿波おどりの県外から人出数は、1985年(昭和60年)から増加傾向。

■ 高知県 よさこい祭り



提供：高知商工会議所

【よさこい祭り 県外からの踊り子参加チーム数】



出典：高知商工会議所

■ 徳島県 阿波おどり



提供：徳島県

【阿波おどり 人出数(県外客)】

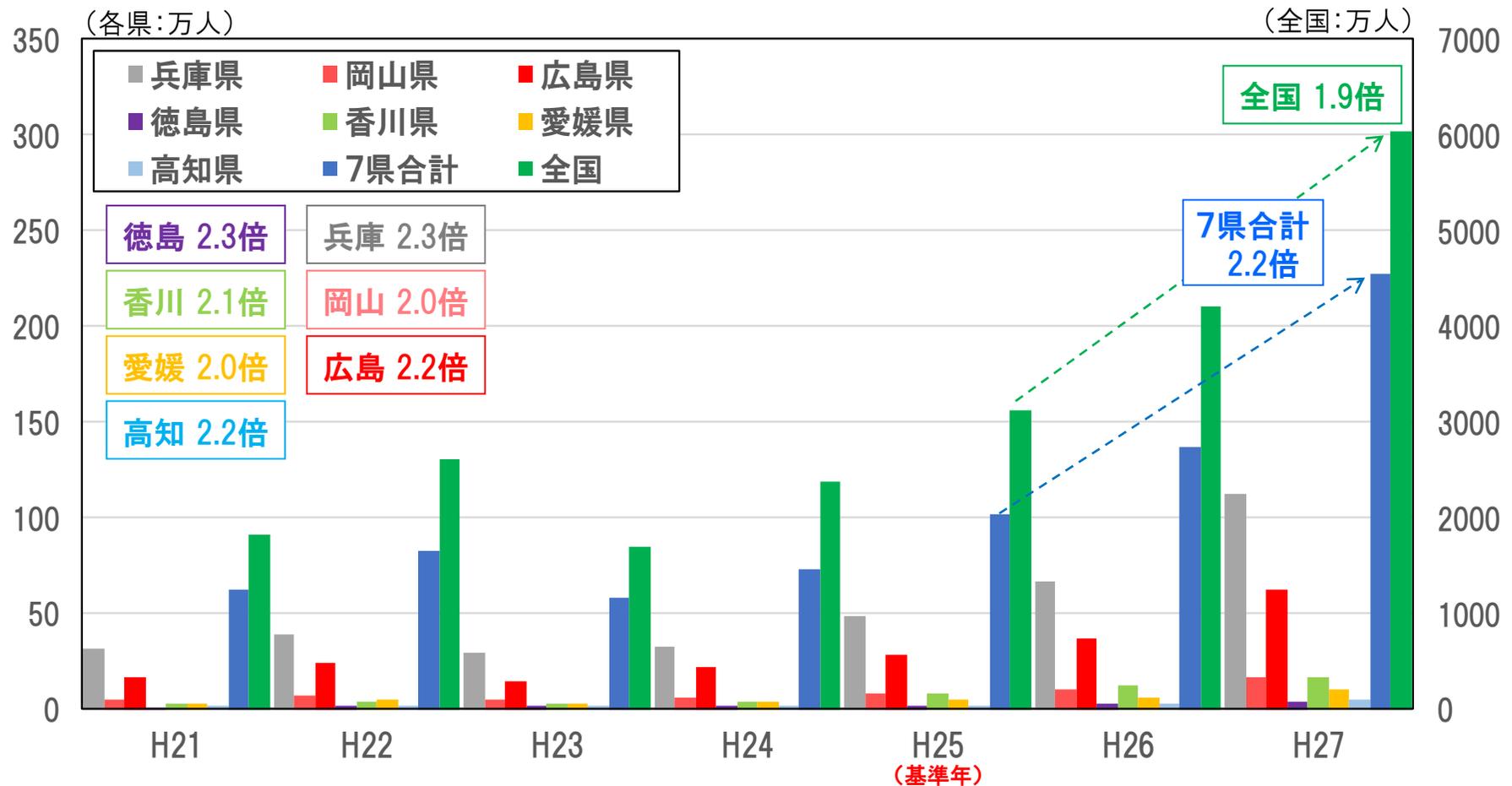


※人出数：4日間の延べ人数。96年は2日、03年は1日中止 出典：徳島市観光協会

環瀬戸内海地域におけるインバウンドの状況

○環瀬戸内海地域で宿泊する外国人観光客は、交流人口目標の基準年としているH25年からの3年間で全国平均(1.9倍)を上回る2.2倍に増加。

◆外国人延べ宿泊客数（本州+四国：7県）

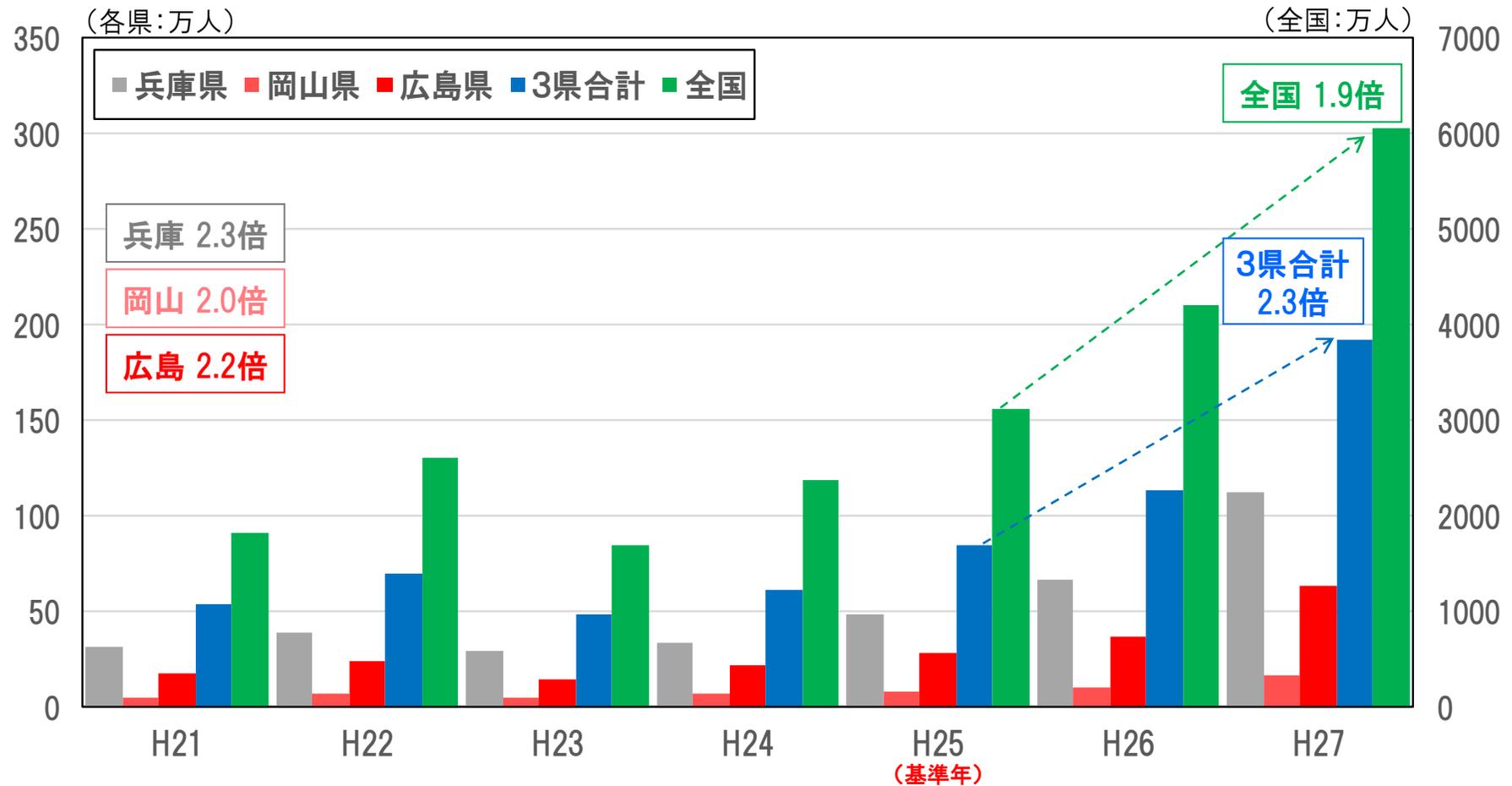


出典) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

環瀬戸内海地域(本州エリア)におけるインバウンドの状況

○本州エリアで宿泊する外国人観光客は、交流人口目標の基準年としているH25年からの3年間で全国平均(1.9倍)を上回る2.3倍に増加。

◆外国人延べ宿泊客数(本州:3県)

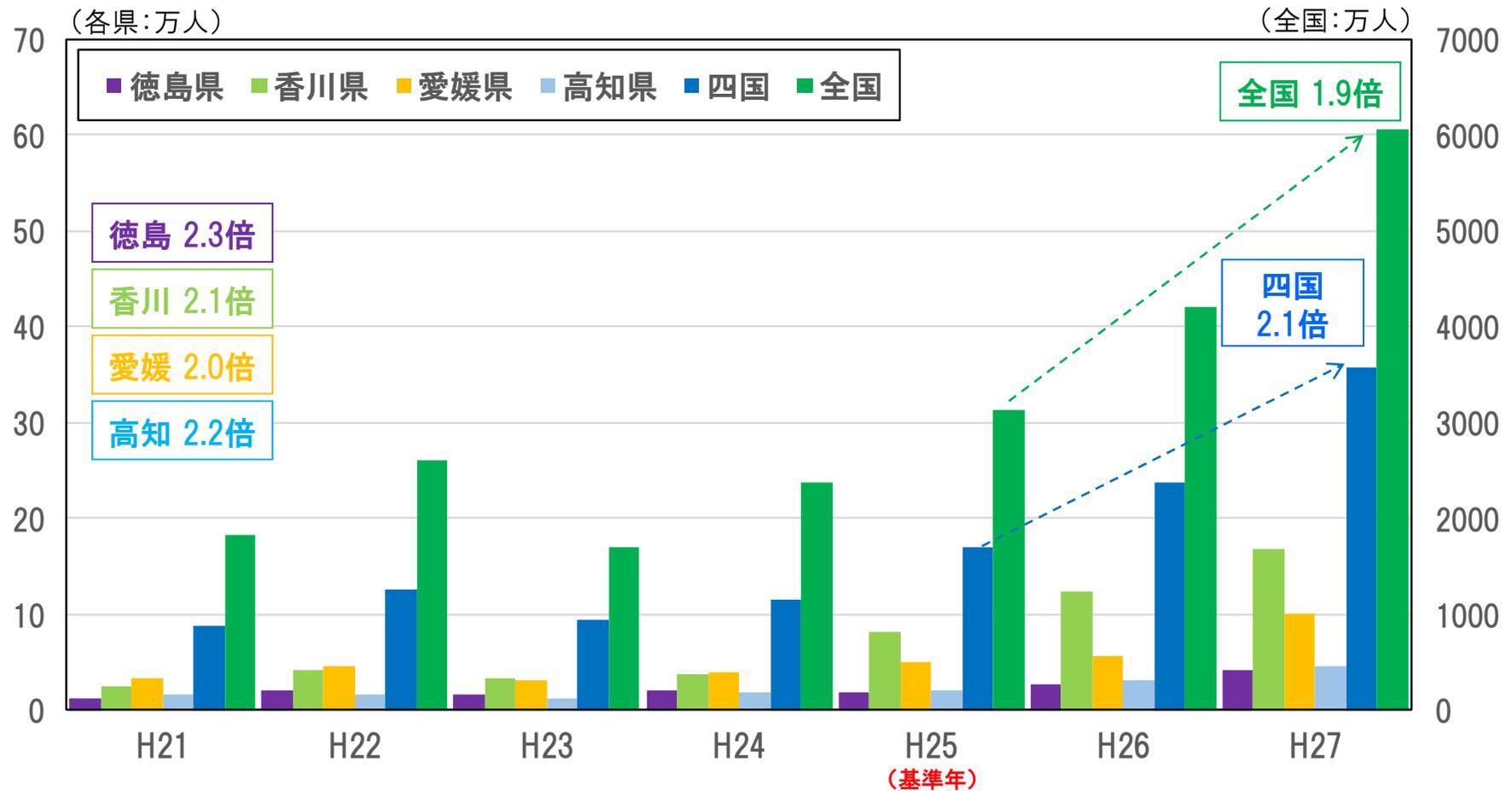


出典) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

環瀬戸内海地域(四国エリア)におけるインバウンドの状況

○四国で宿泊する外国人観光客は、交流人口目標の基準年としているH25年からの3年間で全国平均（1.9倍）を上回る2.1倍に増加。

◆外国人延べ宿泊客数（四国：4県）



出典) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

外国人観光客増加に向けた取組事例

○外国人観光客の増加に向けて、さまざまな取り組みが行われている。

■観光案内所「香川・高松ツーリストインフォメーション」が最高ランクに認定（香川県の事例）

- ・高松駅の観光案内所が、日本政府観光局の認定制度における最高ランクの“カテゴリー3”に、中国・四国地方で初めて認定
- ・英語による対応が可能なスタッフの常駐や、その他の言語での案内が常時可能な体制を構築するなど、外国人観光客の受け入れ態勢を整備

◆日本政府観光局(JNTO)認定外国人観光案内所 認定区分

区分	認定数	主な基準
カテゴリー3	48	常時英語による対応が可能。その上で、英語を除く2以上の言語での案内が常時可能な体制がある。全国レベルの観光案内を提供。原則年中無休。Wi-Fiあり。ゲートウェイや外国人来訪者の多い立地。
カテゴリー2	197	少なくとも英語で対応可能なスタッフが常駐。広域の案内を提供。
カテゴリー1	480	常駐でなくとも何らかの方法で英語対応可能。地域の案内を提供。
パートナー施設	95	光案内を専門としない施設であっても、外国人旅行者を積極的に受け入れる意欲があり、公平・中立な立場で地域の案内を提供。

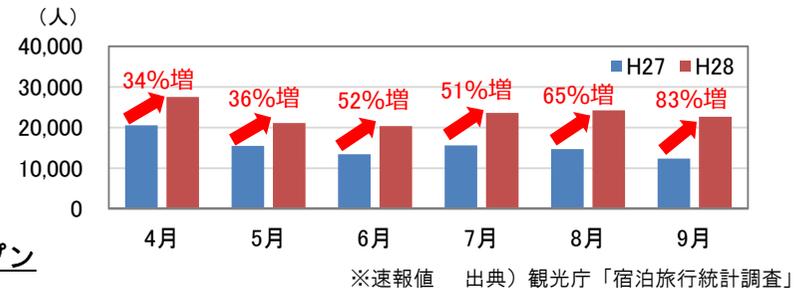
出典) 日本政府観光局 (JNTO)

◆観光案内所の概要(H28.3.15オープン)

名称	香川・高松ツーリストインフォメーション
場所	JR高松駅1階コンコース
営業時間	9:00~20:00(年中無休)
実施主体	公益社団法人 香川県観光協会
委託先	公益財団法人 高松観光コンベンション・ビューロー

出典) 香川県HP

◆外国人延べ宿泊者数の推移(香川県)



■商店街に免税手続き一括カウンターがオープン（岡山県の事例）

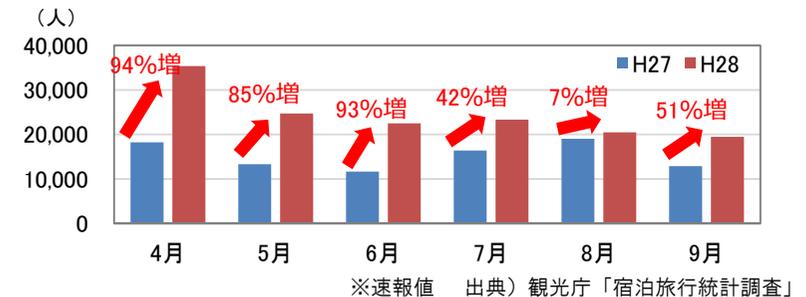
- ・岡山市において、商店街として全国で初めての免税手続き一括カウンターがオープン
- ・各店舗で買い物をした後、免税カウンターでまとめて免税手続きが可能となり、外国人観光客の利便性が向上。商店街の活性化にも期待。

◆概要(H28.7.28オープン)

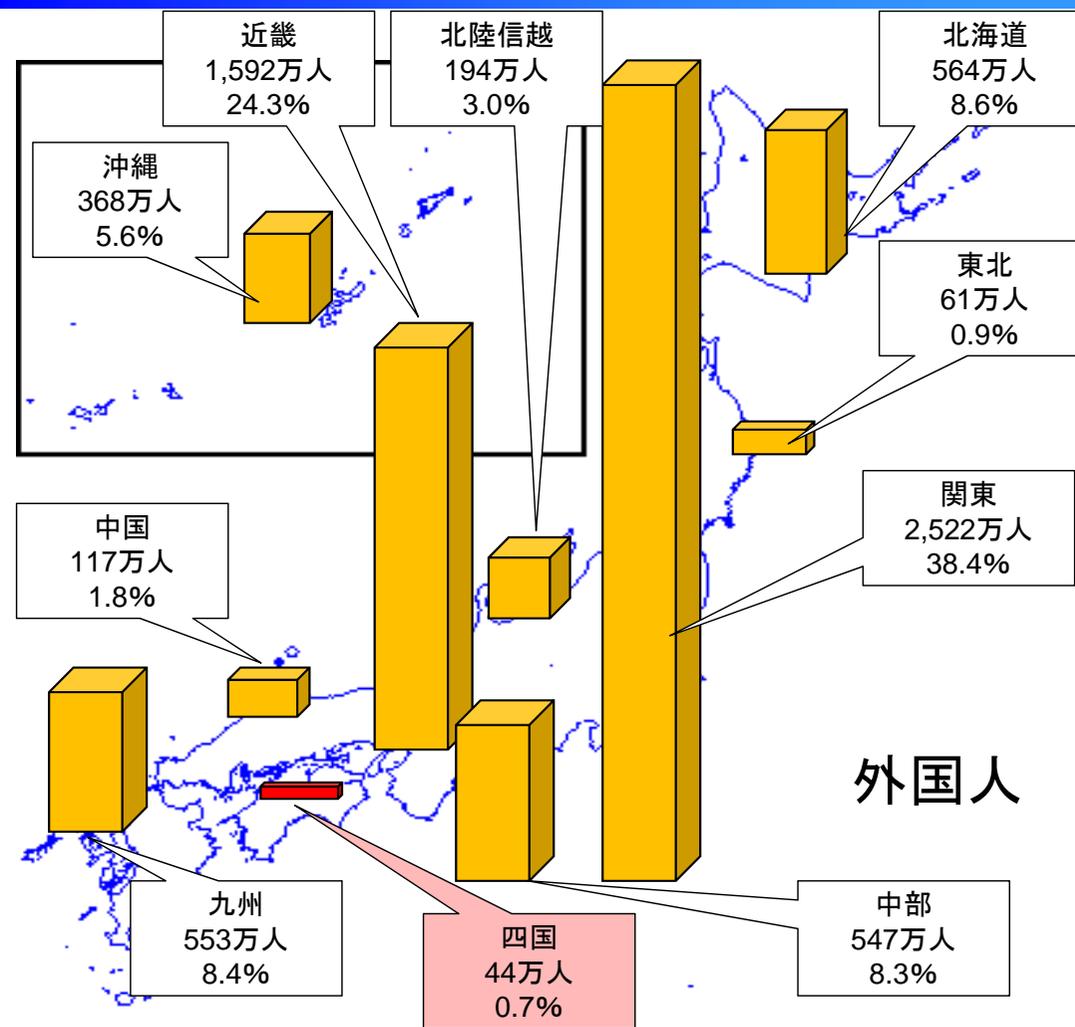
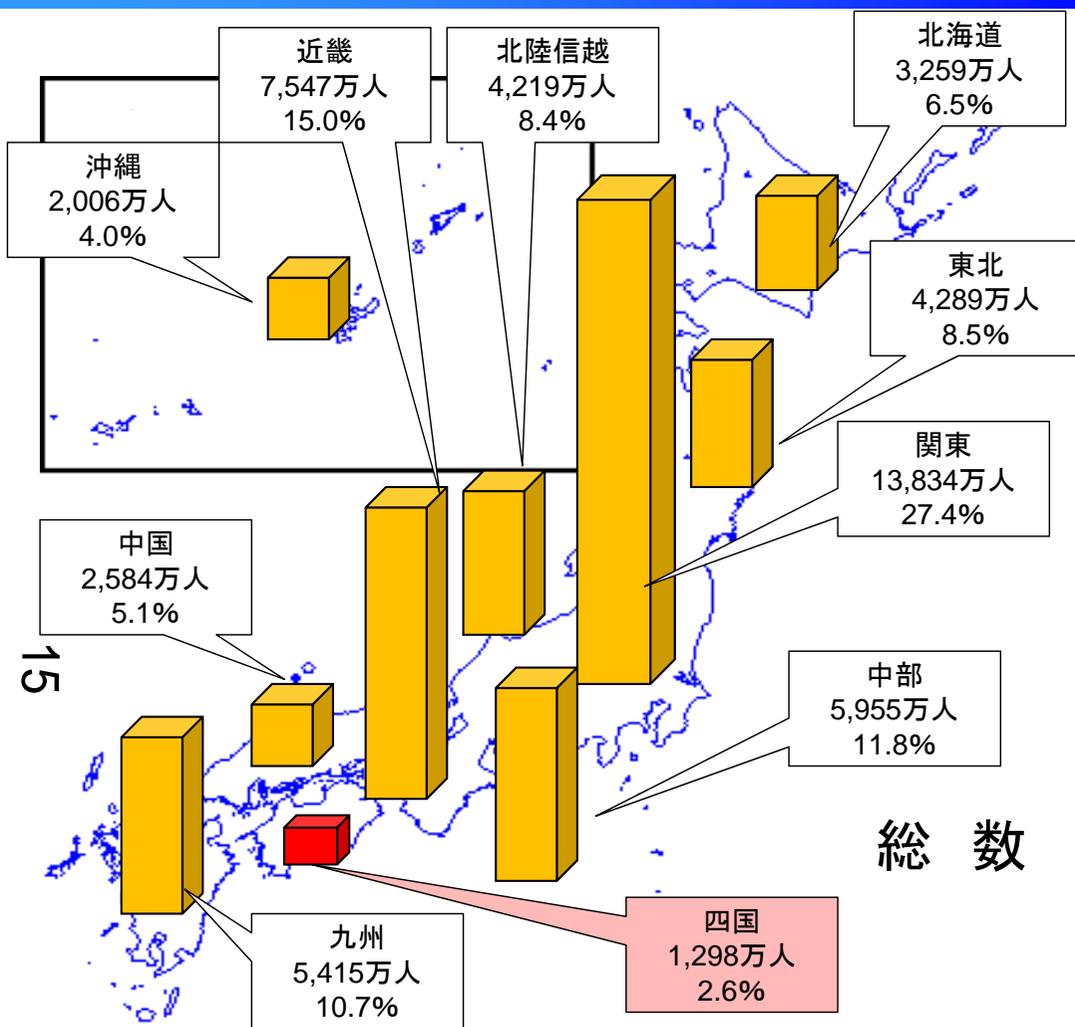
対象	岡山市表町商店街・ロマンチック通り商店街
カウンター設置場所	岡山天満屋 5階ギフトサロン、地下1階食品ギフトサロン
免税店数	商店街の加盟店20店舗(開始時)

出典) 経済産業省

◆外国人延べ宿泊者数の推移(岡山県)



ブロック別延べ宿泊者数(平成27年)



基礎データ	人口 (千人)	人口 全国比	GDP (兆円)	GDP 全国比	面積 (km ²)	面積 全国比
全国	127,083		508.65		377,970	
四国地方	3,878	3.05%	13.62	2.68%	18,804	4.97%
徳島県	764	0.60%	2.94	0.58%	4,147	1.10%
香川県	981	0.77%	3.65	0.72%	1,877	0.50%
愛媛県	1,395	1.10%	4.77	0.94%	5,676	1.50%
高知県	738	0.58%	2.26	0.44%	7,104	1.88%

宿泊統計 平成27年度確定値	延べ宿泊客数(人) ※	順位	比率	うち外国人 ※ 延べ宿泊者数(人)	順位	比率
全国	504,078,370			65,614,600		
四国地方	12,984,900		2.58%	441,550		0.67%
徳島県	2,314,910	47位	0.46%	58,340	44位	0.09%
香川県	4,076,570	37位	0.81%	210,470	27位	0.32%
愛媛県	3,773,550	40位	0.75%	106,850	38位	0.16%
高知県	2,819,870	45位	0.56%	65,890	42位	0.10%

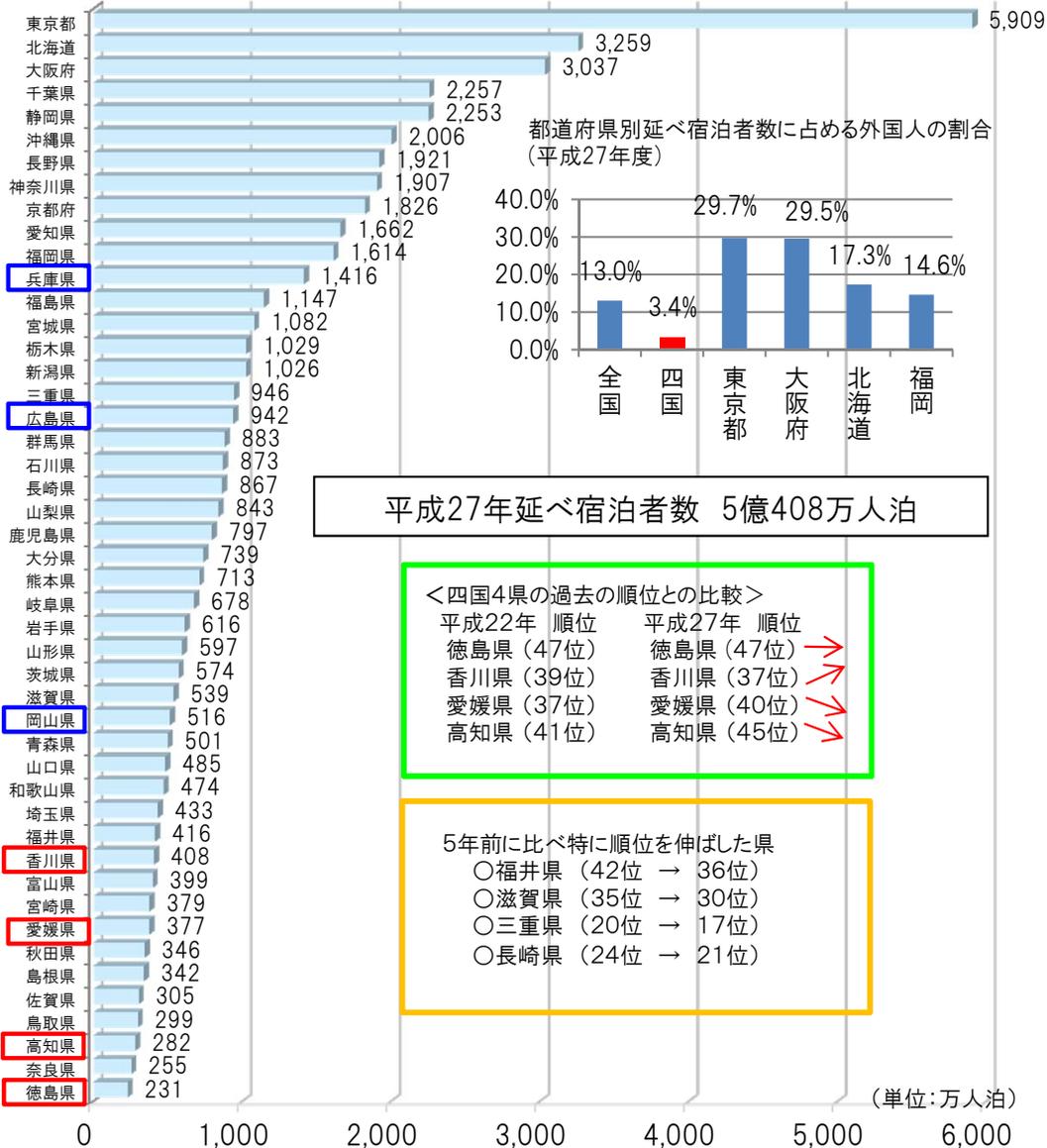
人口…総務省統計局人口推計(平成26年10月1日(確定値))
 GDP…内閣府の統計データの統計表(平成25年度県民経済計算)県内総生産(名目)
 面積…国土地理院 平成27年度全国都道府県市区町村別面積調(平成27年10月1日)

※従業員数10人未満の施設の宿泊客数を含んだ集計表
 宿泊旅行統計調査 平成27年確定値

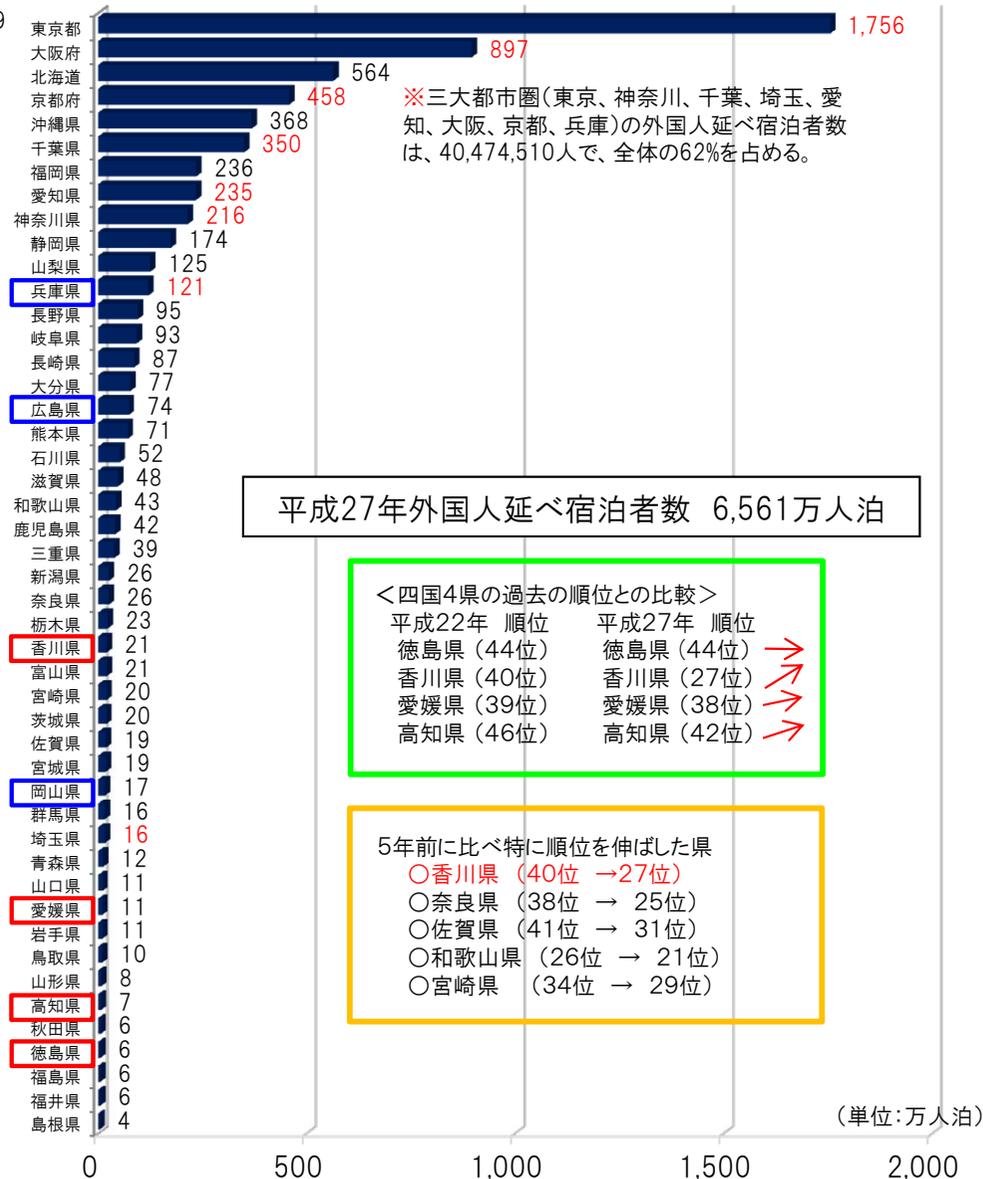
出典:四国運輸局

都道府県別外国人延べ宿泊者数

都道府県別 延べ宿泊者数



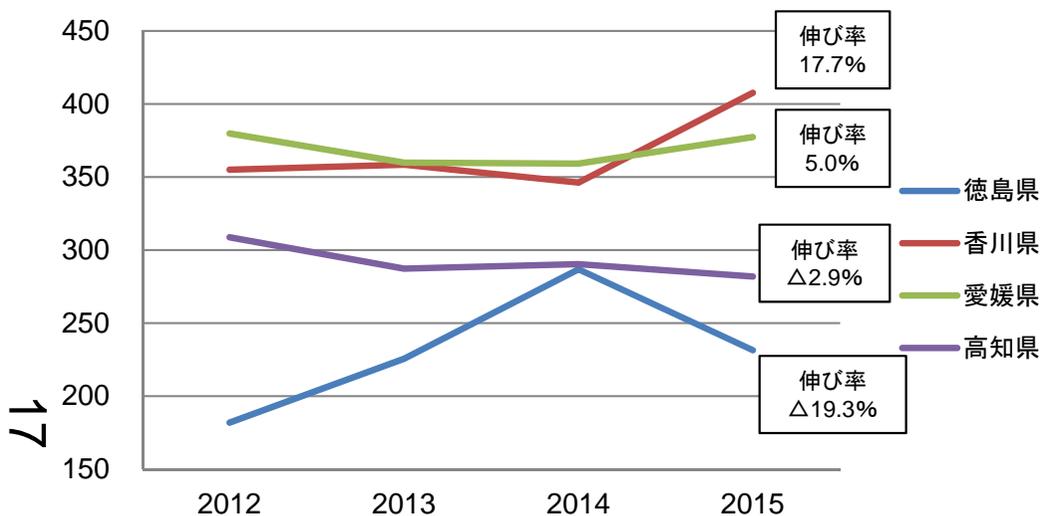
都道府県別 外国人延べ宿泊者数



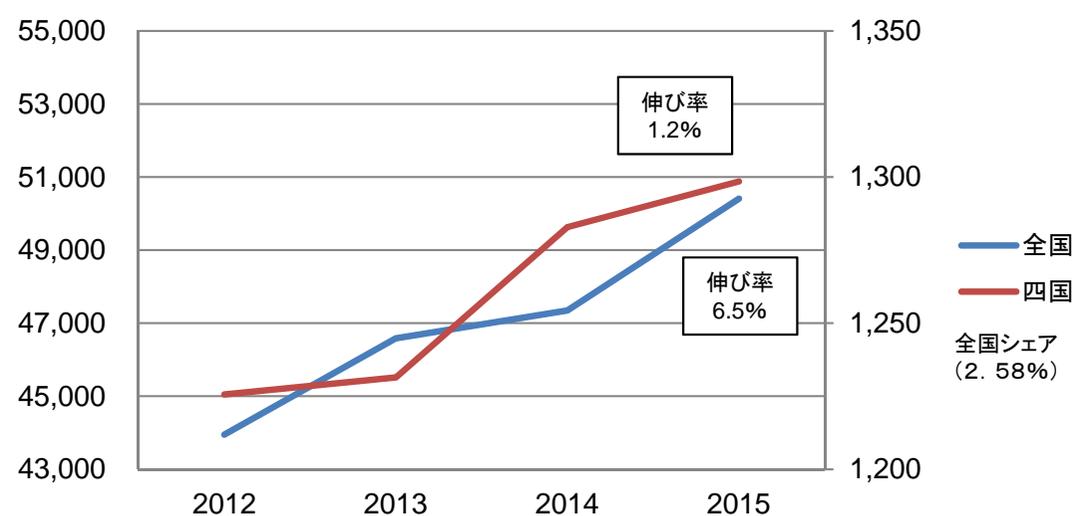
四国の宿泊の現状

国内観光は微増。＜四国年間1298万人泊（1.2%増）。全国5億400万人泊の2.58%＞
 国際観光は大幅増。＜四国外国人44万人泊（56.9%増）。全国6560万人泊の0.67%＞

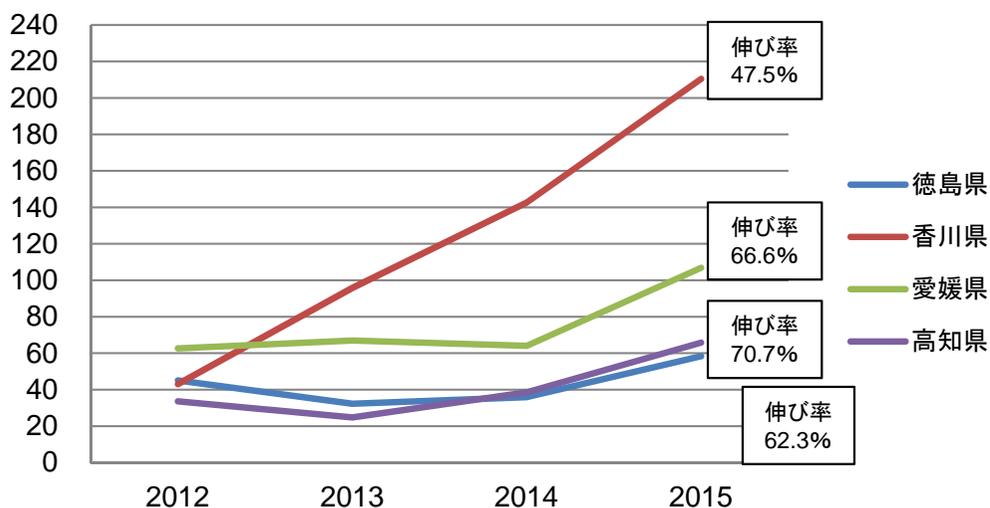
四国四県の総宿泊者数(万人)



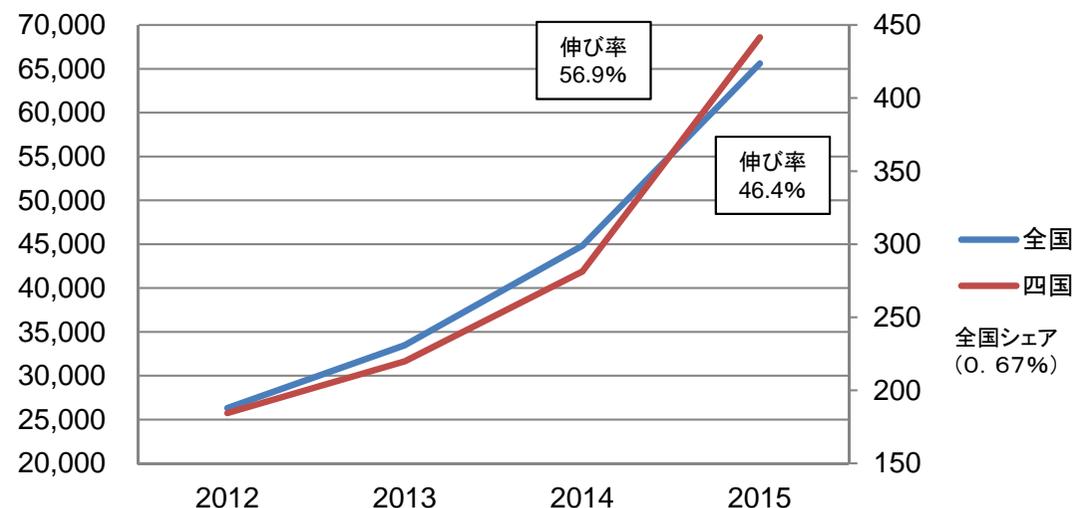
全国と四国の総宿泊者数(万人)



四国の外国人宿泊者数(千人)

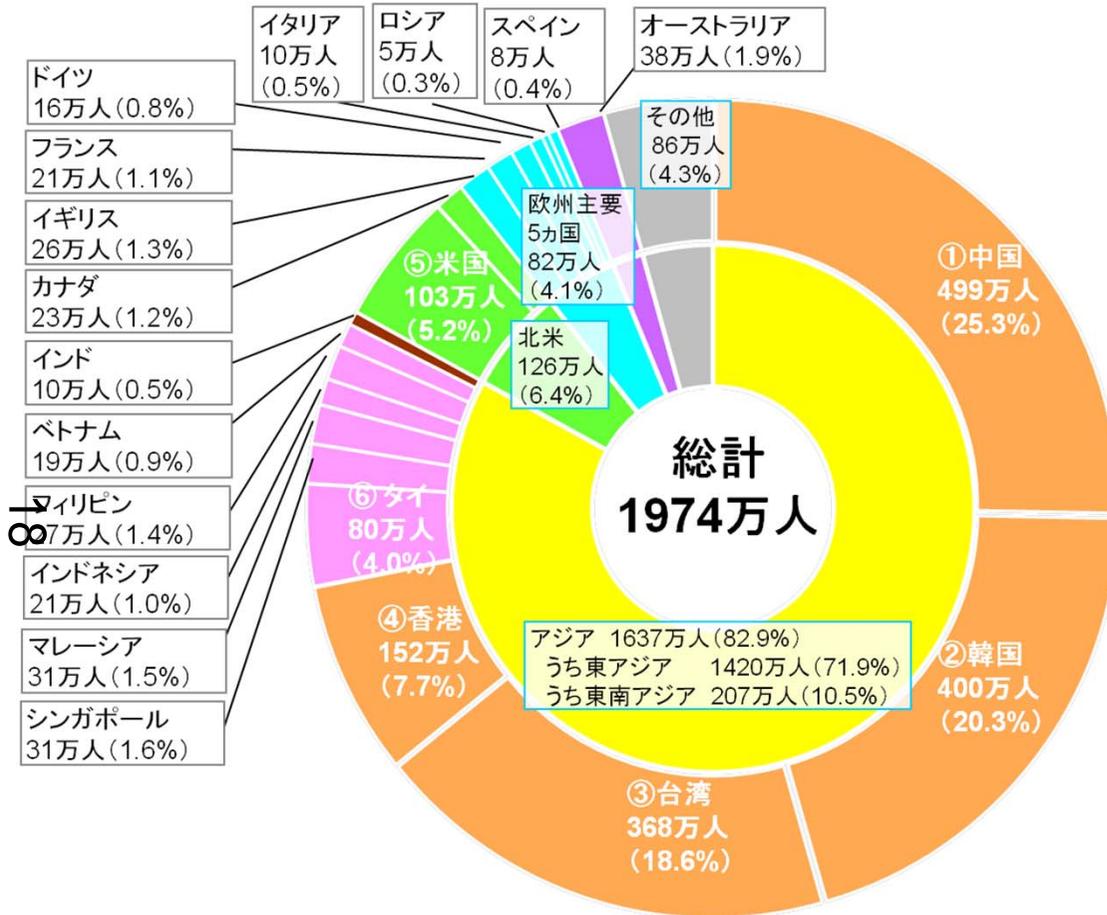


全国と四国の外国人宿泊者数(千人)

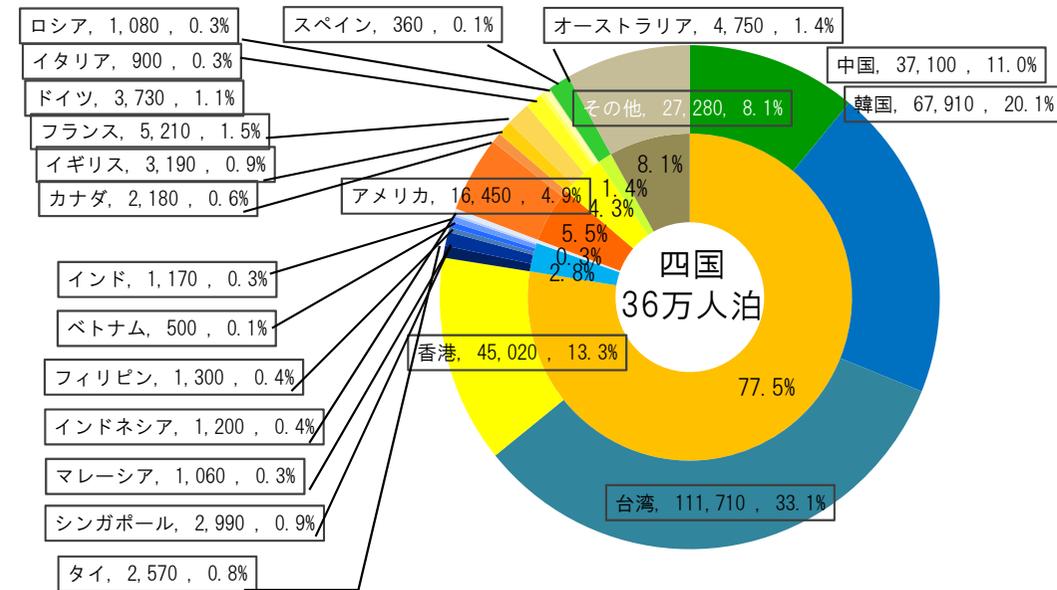


2015年の訪日外国人旅行者数及び割合（国・地域別）と市場別増減率

【2015年全国（確定値）】



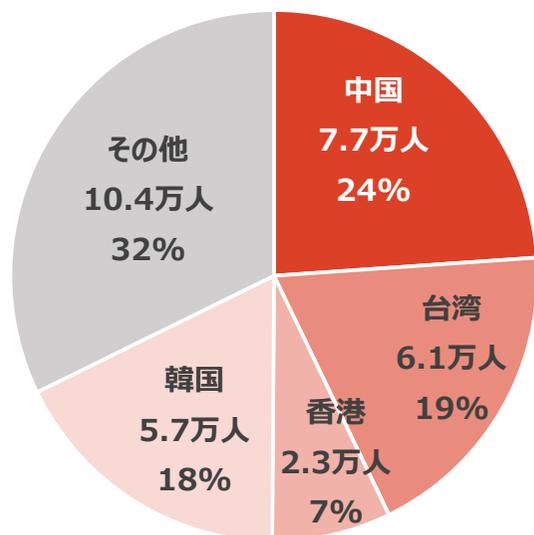
【2015年四国（確定値）】



※ ()内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア
 ※ その他には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国・地域が含まれる。
 ※ 数値は、それぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しない場合がある。
 ※ 日本政府観光局(JNTO)資料より観光庁作成

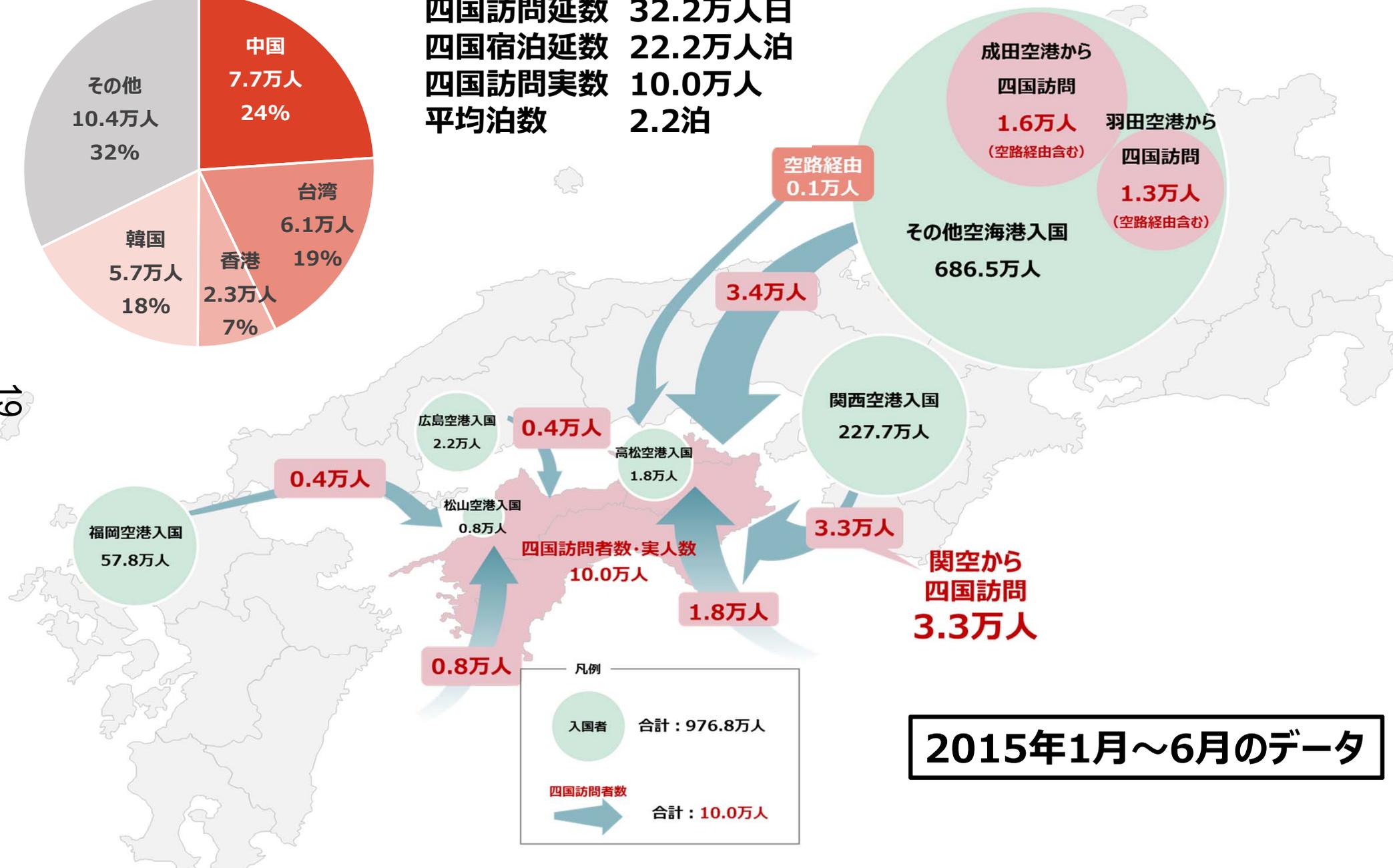
※ ()内は、訪日外国人宿泊者数全体に対するシェア
 ※ その他には、年間宿泊者数5,000人以下の国が含まれる。
 ※ 数値は、それぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しない場合がある。
 ※ 観光庁の宿泊旅行統計調査により四国運輸局で作成

入国空港別の四国訪問者数

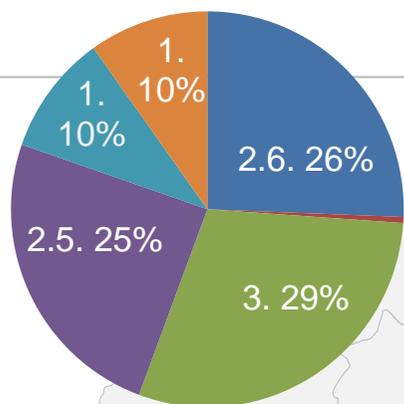


四国訪問延数 32.2万人日
四国宿泊延数 22.2万人泊
四国訪問実数 10.0万人
平均泊数 2.2泊

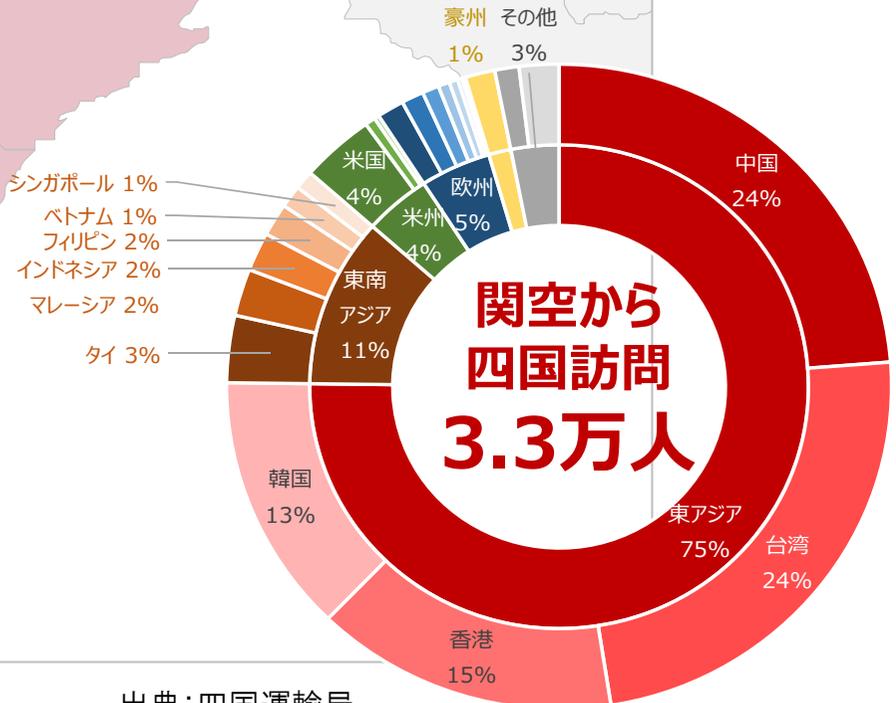
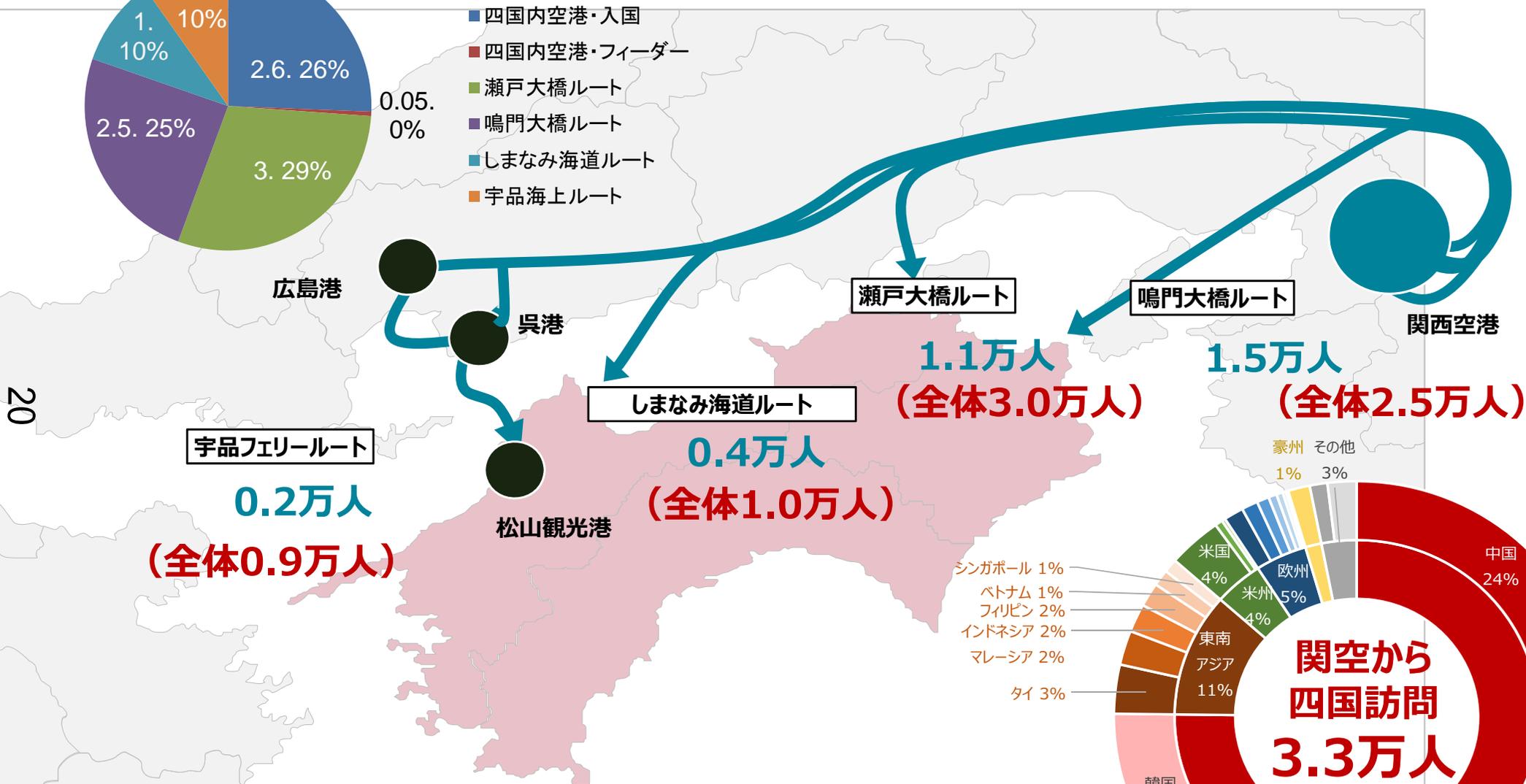
19



関西空港利用者の四国アクセスルート別訪問者数



- 四国内空港・入国
- 四国内空港・フィーダー
- 瀬戸大橋ルート
- 鳴門大橋ルート
- しまなみ海道ルート
- 宇品海上ルート



出典: 四国運輸局

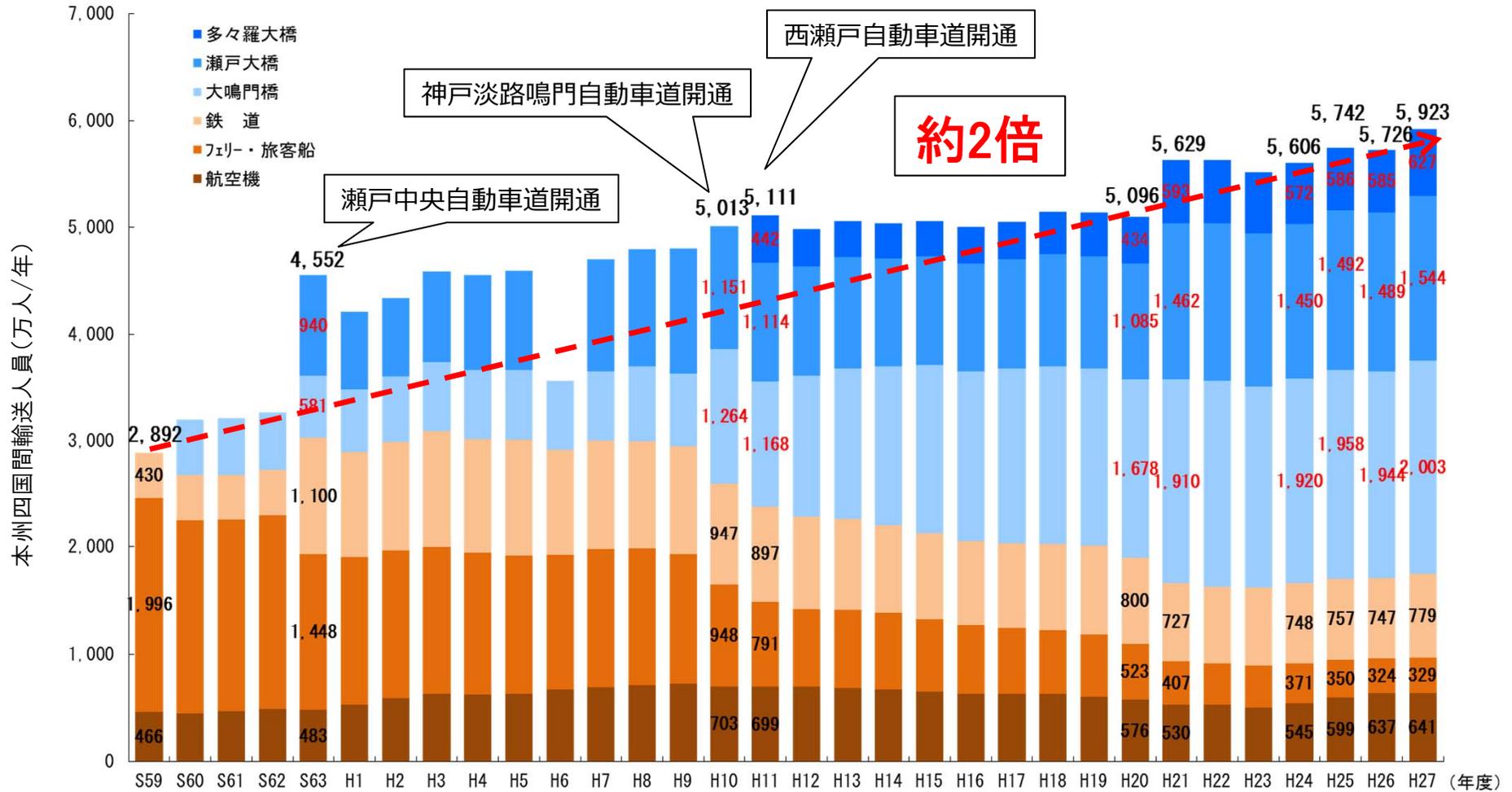
②本州四国間の交流状況について

本州四国間の交流(人の交流)

確定値

- H27年度の交流人口は5,923万人／年であり、H26年度に対して約3.4%増加。
- S59年度以降、長期的には約2倍に増加している。

◆交通機関別の本州四国間輸送人員の推移

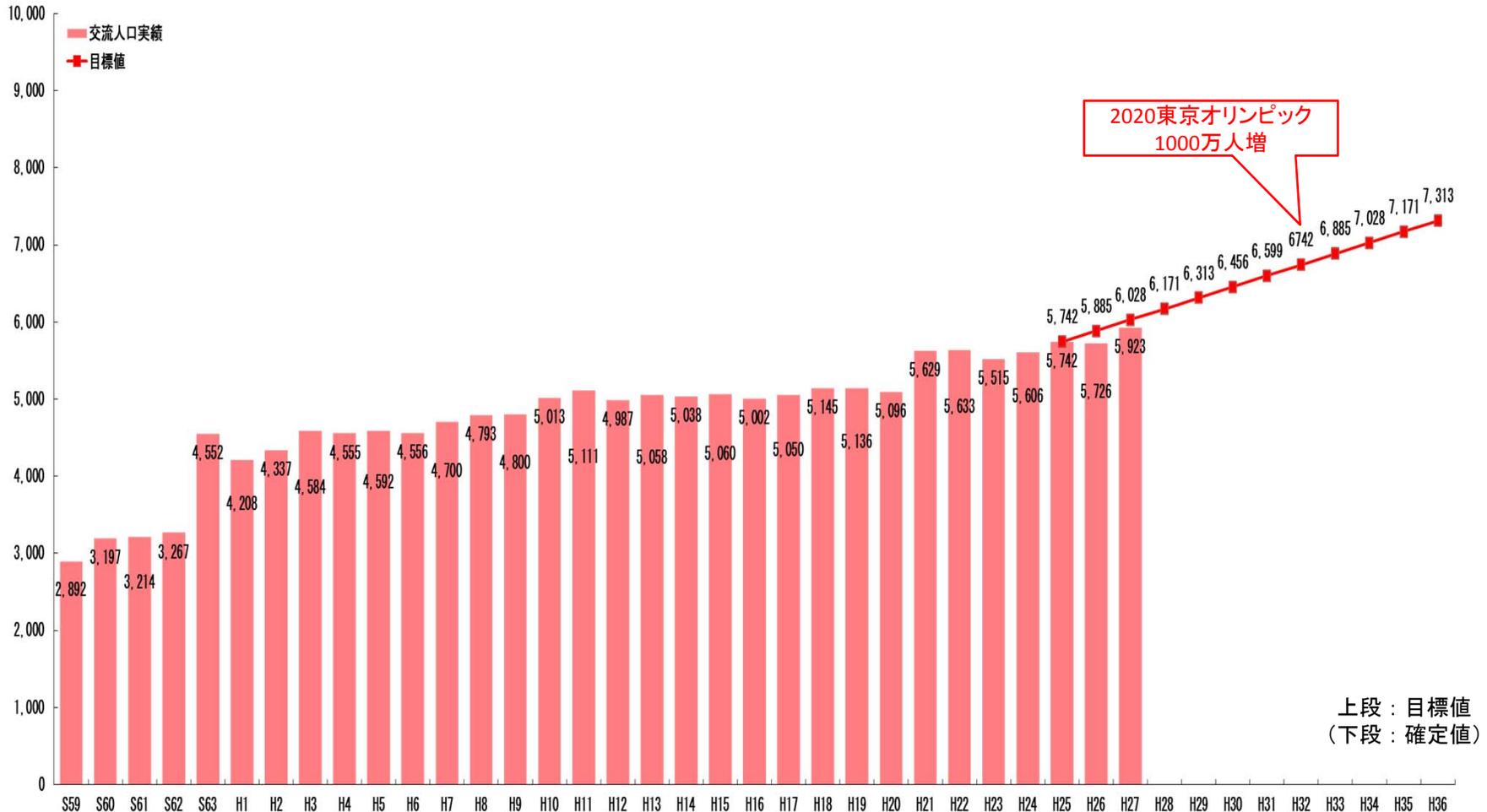


出典) 四国運輸局「業務要覧」
 注1: 瀬戸大橋開通(1988年4月)以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員
 注2: 瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

本州四国間交流人口の達成状況

- 交流人口は平成26年度～平成27年度（1年間）で197万人（約3.5%）増加。
- 当面は、2020年（東京オリンピック開催）までに1000万人増を目指す。

◆交通機関別の本州四国間輸送人員（推計値）の推移



上段：目標値
(下段：確定値)

出典) 四国運輸局「業務要覧」

注1：瀬戸大橋開通（1988年4月）以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

注2：瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

本州四国間交流人口の達成状況(橋梁毎の達成状況)

- 本州四国連絡橋は目標に対し、やや低めの交通量で推移しているが、年々増加傾向。
- 交通量に対する観光客入込客数は交流人口目標値の基準年であるH25に対して増加傾向。

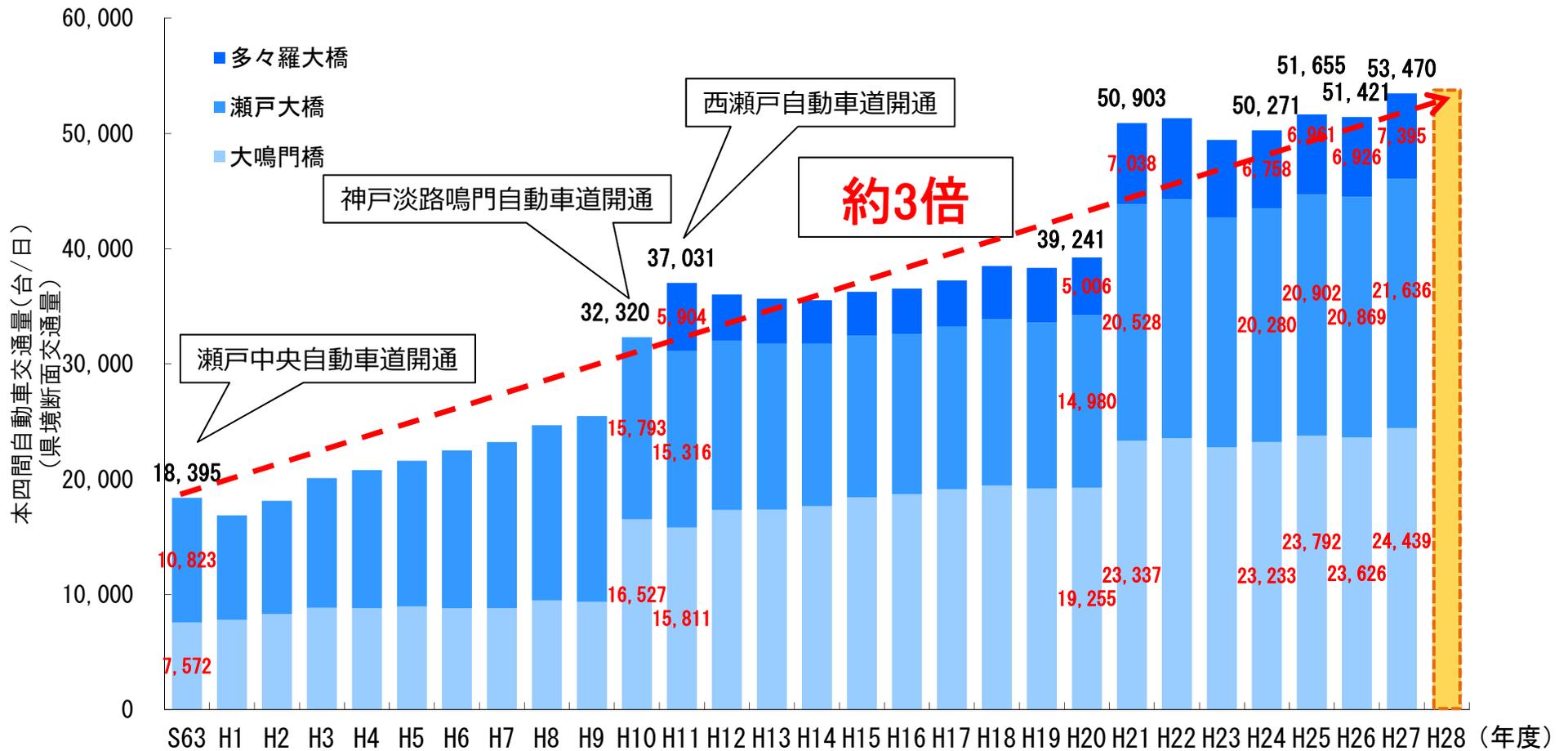
		H25		H26		H27		H32
交流人口 (万人/年)		() 内の伸率は、対H25(基準年)比						
	上段：目標	5,742	→	5,885(+2.5%)	→	6,028(+5.0%)	→	6,742(+17.4%)
	下段：実績			5,726(-0.3%)		5,923(+3.2%)		2020年(H32)に交流人口 100万人増加を目標
大鳴門橋	上段：目標	1,958	→	2,007(+2.5%)	→	2,056(+5.0%)	→	2,299(+17.4%)
	下段：実績			1,944(-0.7%)		2,003(+2.3%)		
瀬戸大橋	上段：目標	1,492	→	1,529(+2.5%)	→	1,566(+5.0%)	→	1,752(+17.4%)
	下段：実績			1,489(-0.2%)		1,544(+3.5%)		
多々羅大橋	上段：目標	586	→	601(+2.5%)	→	615(+5.0%)	→	688(+17.4%)
	下段：実績			585(-0.2%)		627(+8.9%)		
その他	上段：目標	1,706	→	1,749(+2.5%)	→	1,791(+5.0%)	→	2,003(+17.4%)
	下段：実績			1,708(+0.1%)		1,749(+2.5%)		
光入込客 (万人回/年)		() 内の伸率は、対前年比						
兵庫県		7,034	→	7,399(+5.2%)	→	7,224(-2.4%)		
岡山県		1,232	→	1,422(+15.4%)	→	1,449(+1.9%)		
広島県		2,344	→	2,405(+2.6%)	→	2,310(-4.0%)		
徳島県		1,044	→	1,137(+8.9%)	→	1,010(-11.2%)		
香川県		1,539	→	1,712(+11.2%)	→	1,674(-2.2%)		
愛媛県		1,311	→	1,461(+11.4%)	→	1,497(+2.5%)		
高知県		590	→	570(-3.4%)	→	集計中		

出典) 本州四国連絡高速道路株式会社
観光庁「共通基準による観光入込客統計」
注) 高知県はH27年値が集計中(非公表)。

交通量の状況（本四間自動車交通量(県境断面交通量)）

○H27年度の本四間自動車交通量（本四3橋）は53,470台／日であり、H26年度に対して約4%増加。
 ○瀬戸中央自動車道開通後のS63年度以降、長期的には約3倍に増加している。

◆本州四国間の自動車交通量の推移



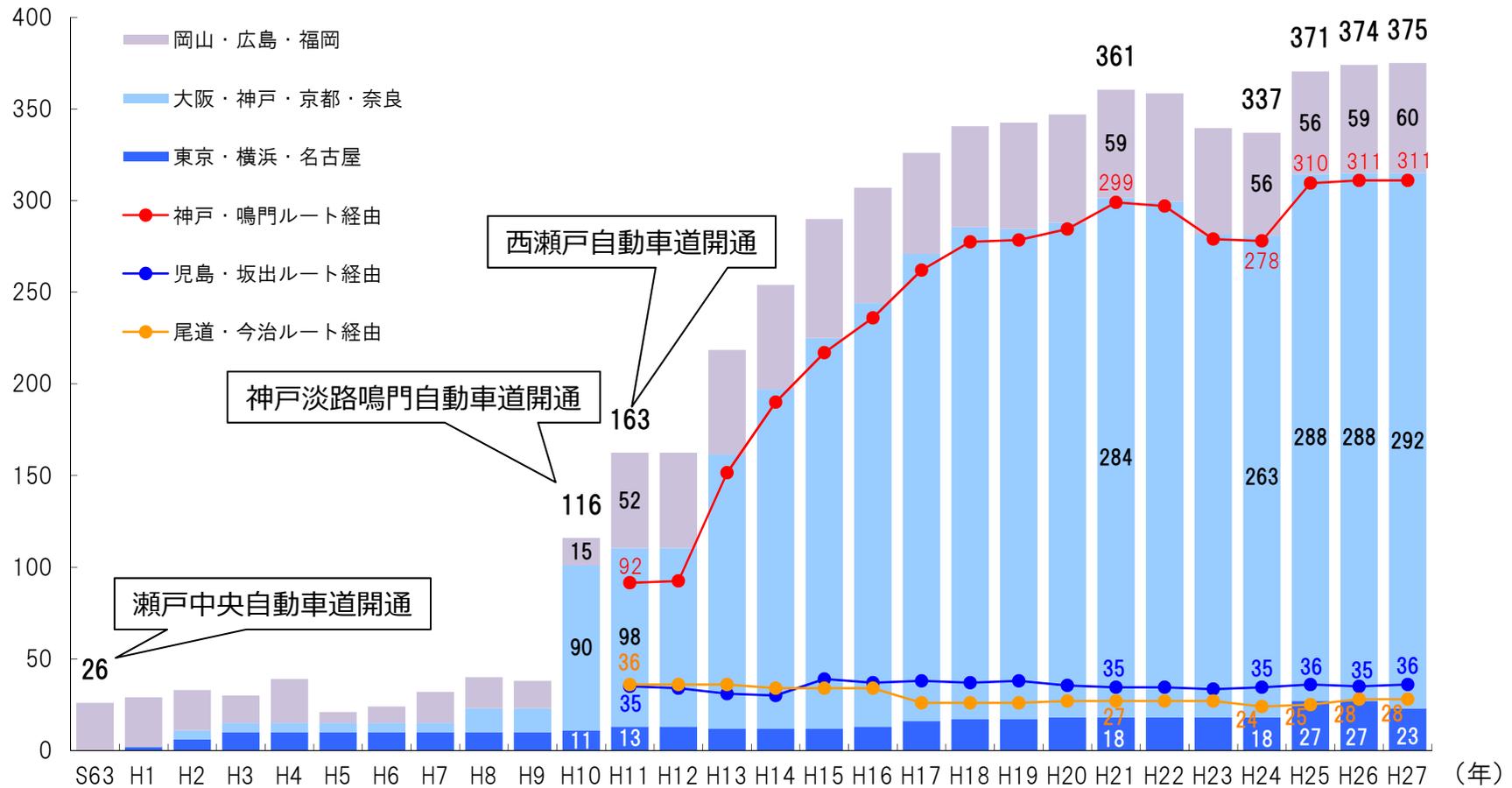
出典) 本州四国連絡高速道路株式会社
 ※H28はH28.4~10は確定値。H28.11~H29.3は見込み。

本州四国間の交流(人の交流)

○神戸淡路鳴門自動車道開通後のH10年以降、京阪神と四国を結ぶ高速バス路線を中心に大幅に増加。
 ○H27年の本四間高速バス便数は375便/日であり、H26年に対して1便/日増加。

◆本州四国間高速バス便数の推移

(往復便数/日)

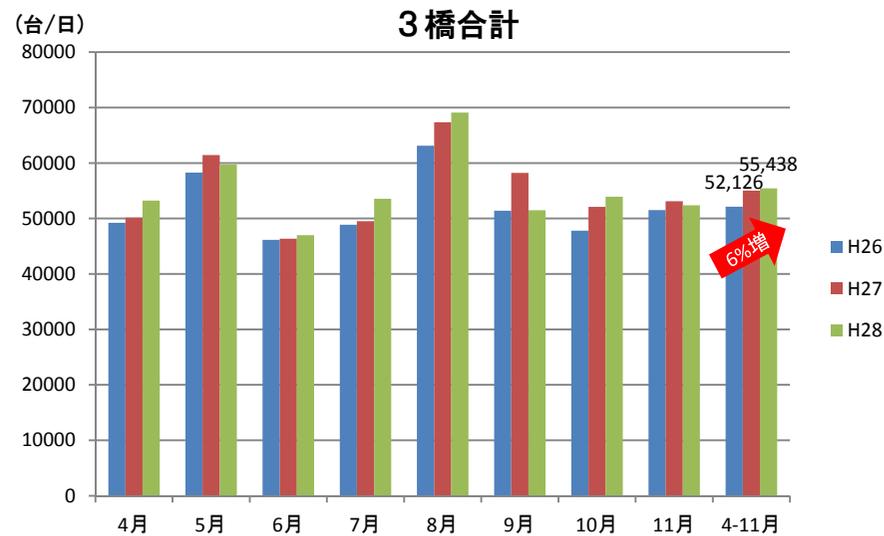
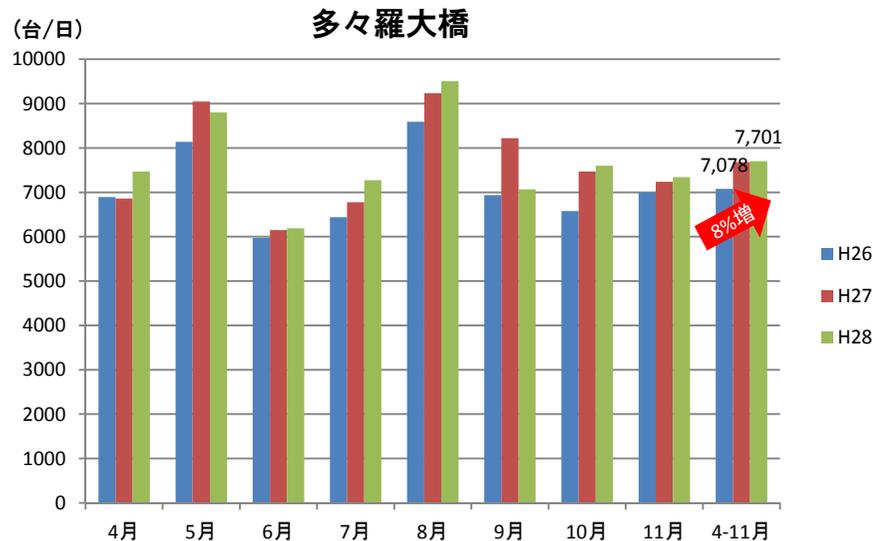
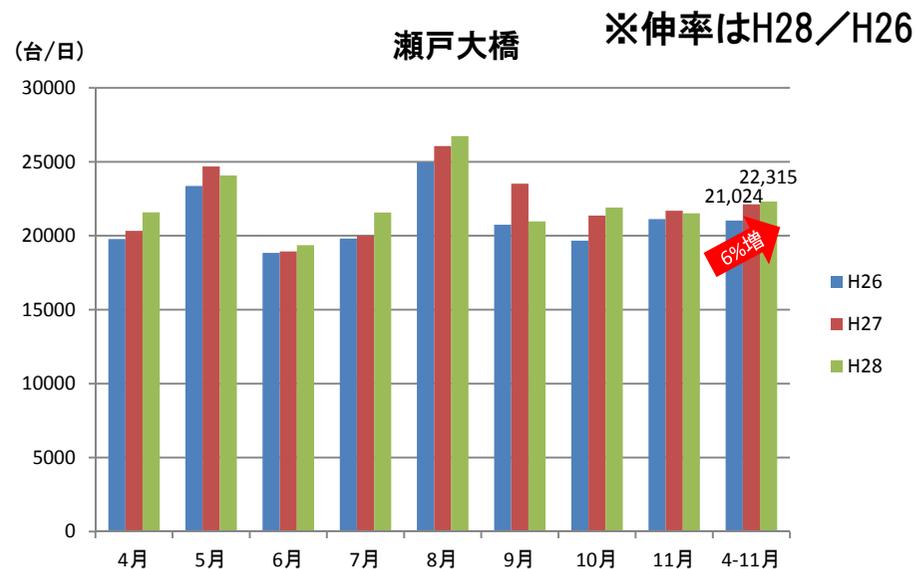
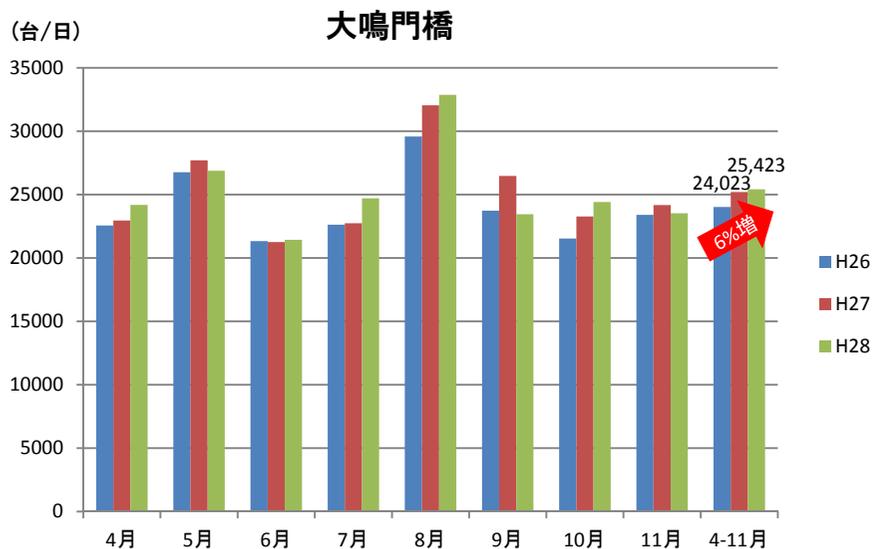


出典)「四国運輸局要覧」(四国運輸局)ほか
 注:各年10月時点の便数

平成26年4～11月と平成28年4～11の本四月平均交通量比較

○どの橋も平成26年より多い平均交通量となっており、約6%交通量が増加。

9



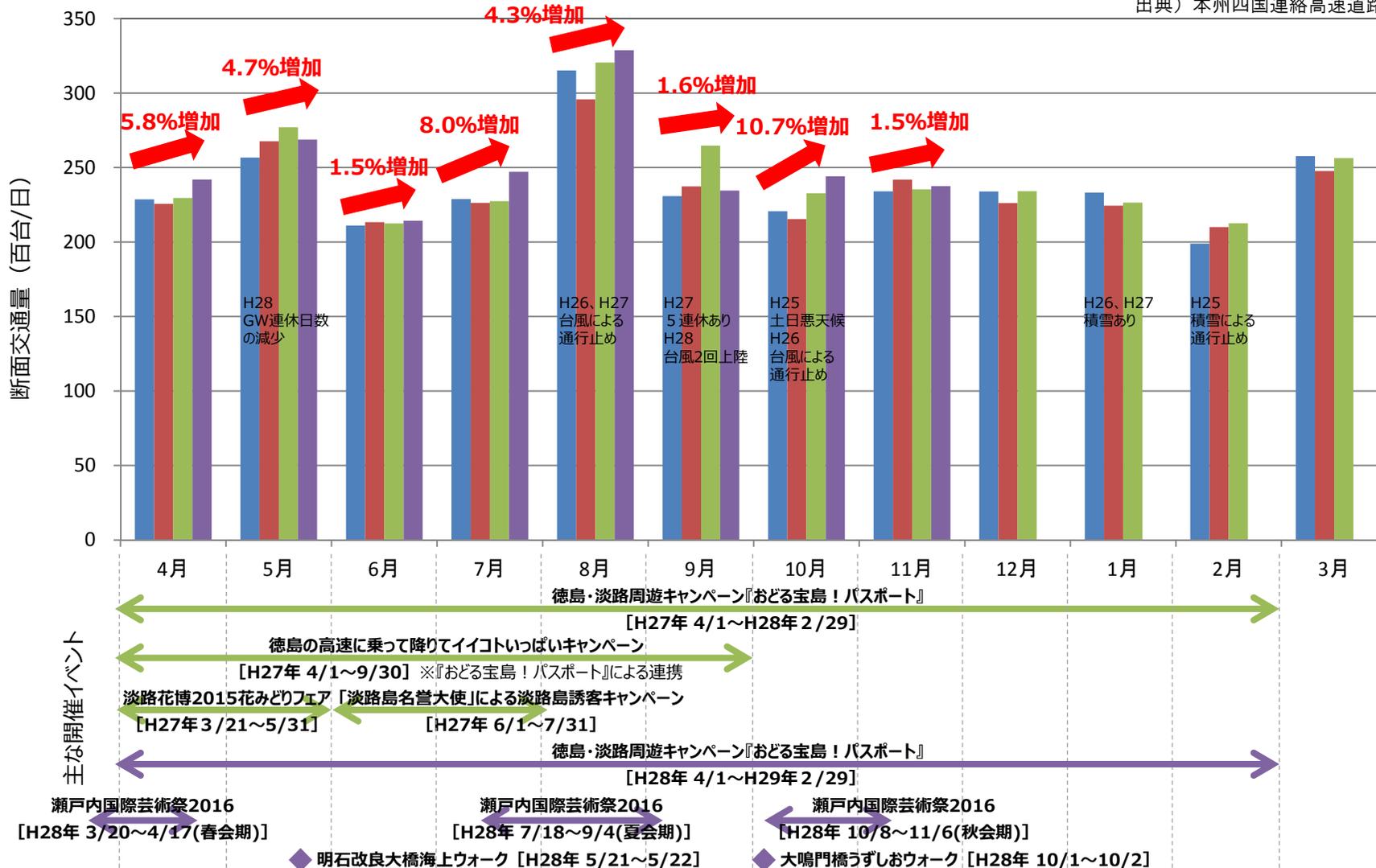
平成28年4月以降の交通量の変化（大鳴門橋）

○神戸淡路鳴門自動車道（大鳴門橋）の平成28年度の平均断面交通量は、過去3箇年に対し増加傾向。

【大鳴門橋断面の日平均交通量の変化
（■H25年度⇒■H26年度⇒■H27年度⇒■H28年度）】

※増減率はH28年度/H25年度
グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成28年4月以降の交通量の変化（瀬戸大橋）

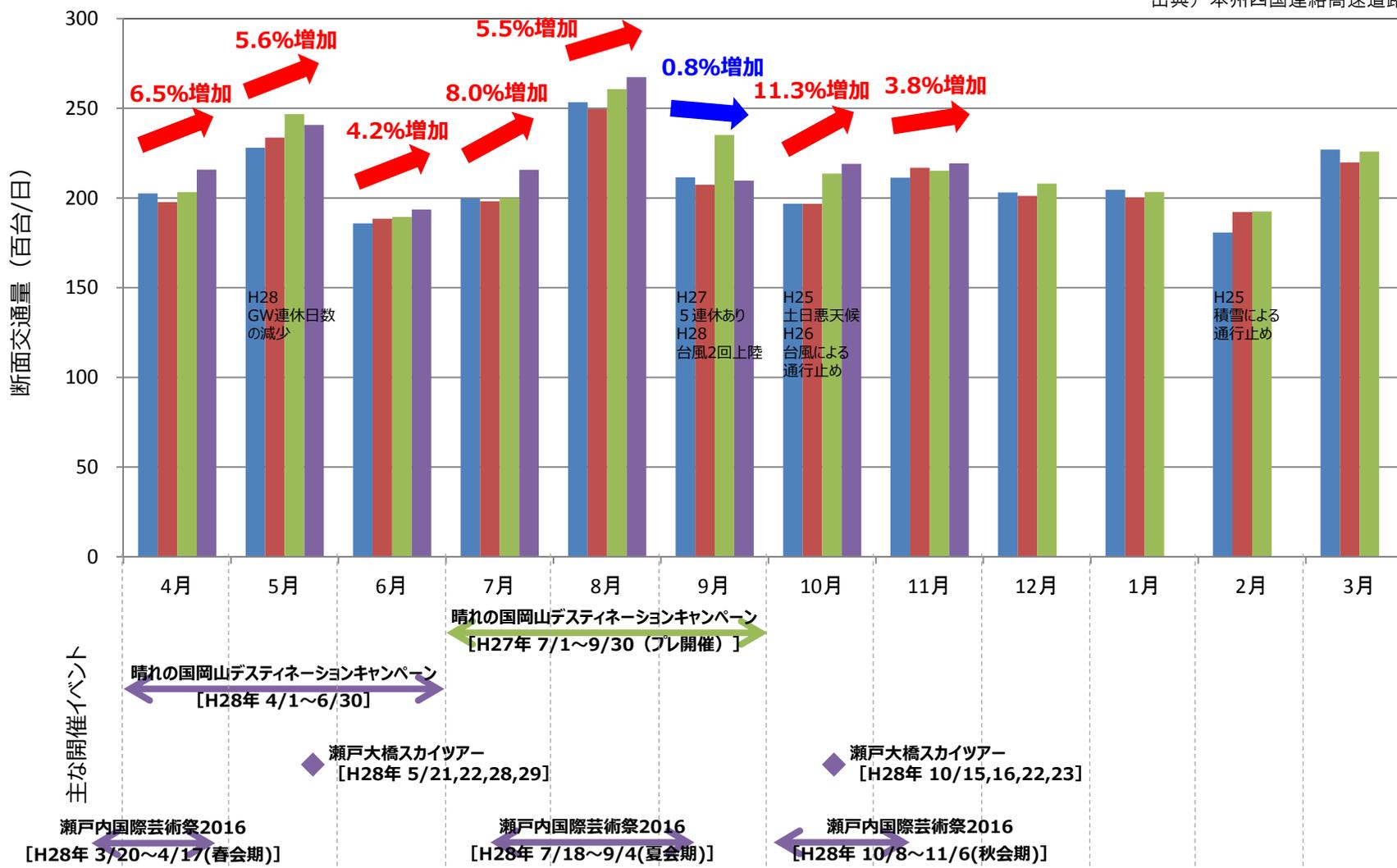
○瀬戸中央自動車道（瀬戸大橋）の平成28年度の平均断面交通量は、過去3箇年に対し増加傾向。

【瀬戸大橋断面の日平均交通量の変化

（■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度）】

※増減率はH28年度/H25年度
 グラフの交通量は100台単位で表示しているため、
 増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成28年4月以降の交通量の変化（多々羅大橋）

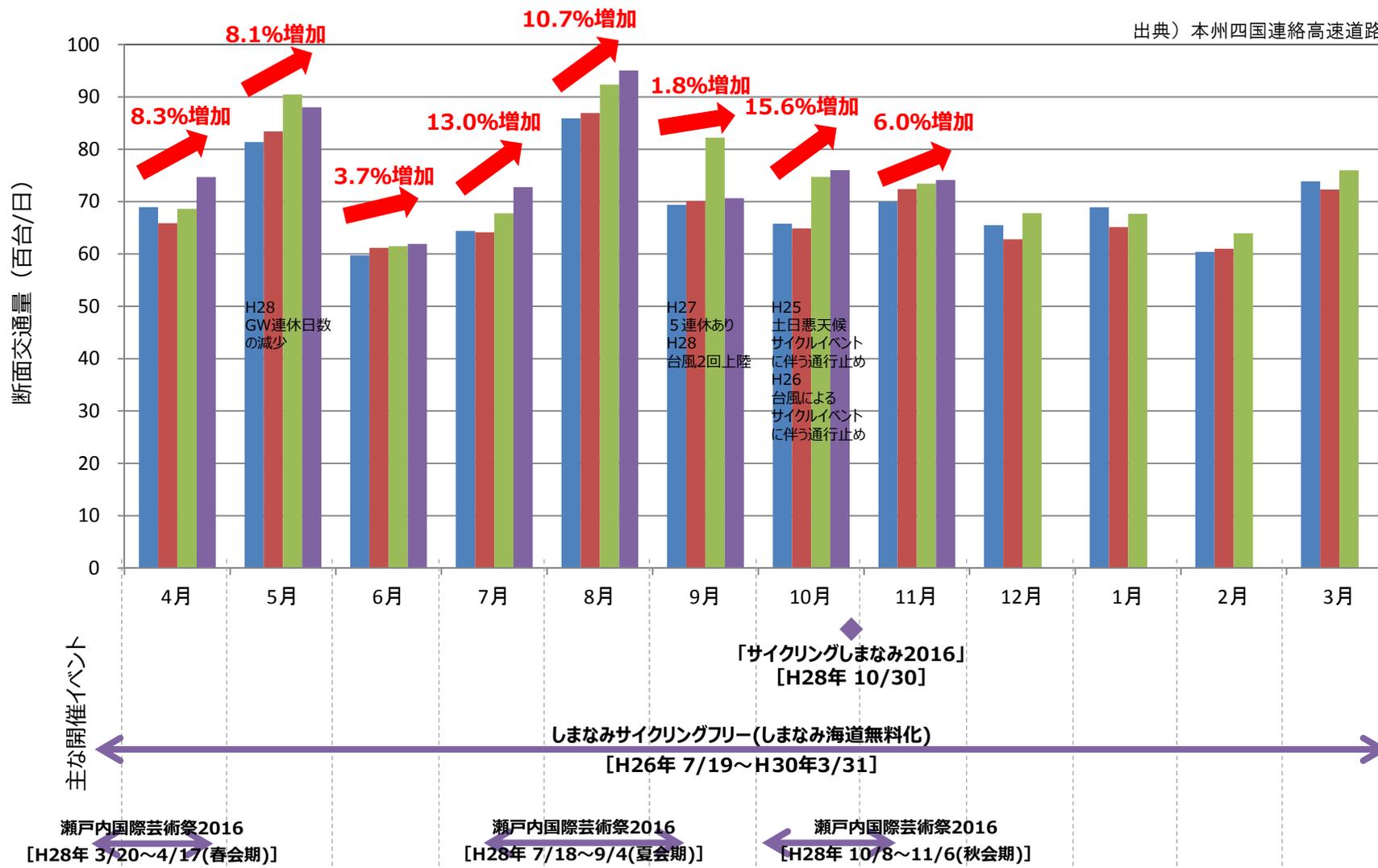
○西瀬戸自動車道（多々羅大橋）の平成28年度の平均断面交通量は、過去3箇年に対し増加傾向。

【多々羅大橋断面の日平均交通量の変化

（■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度）】

※増減率はH28年度/H25年度
 グラフの交通量は100台単位で表示しているため、
 増減率の数値と合わない可能性がある

出典) 本州四国連絡高速道路株式会社



平成28年4月以降の交通量の変化（県境3橋合計）

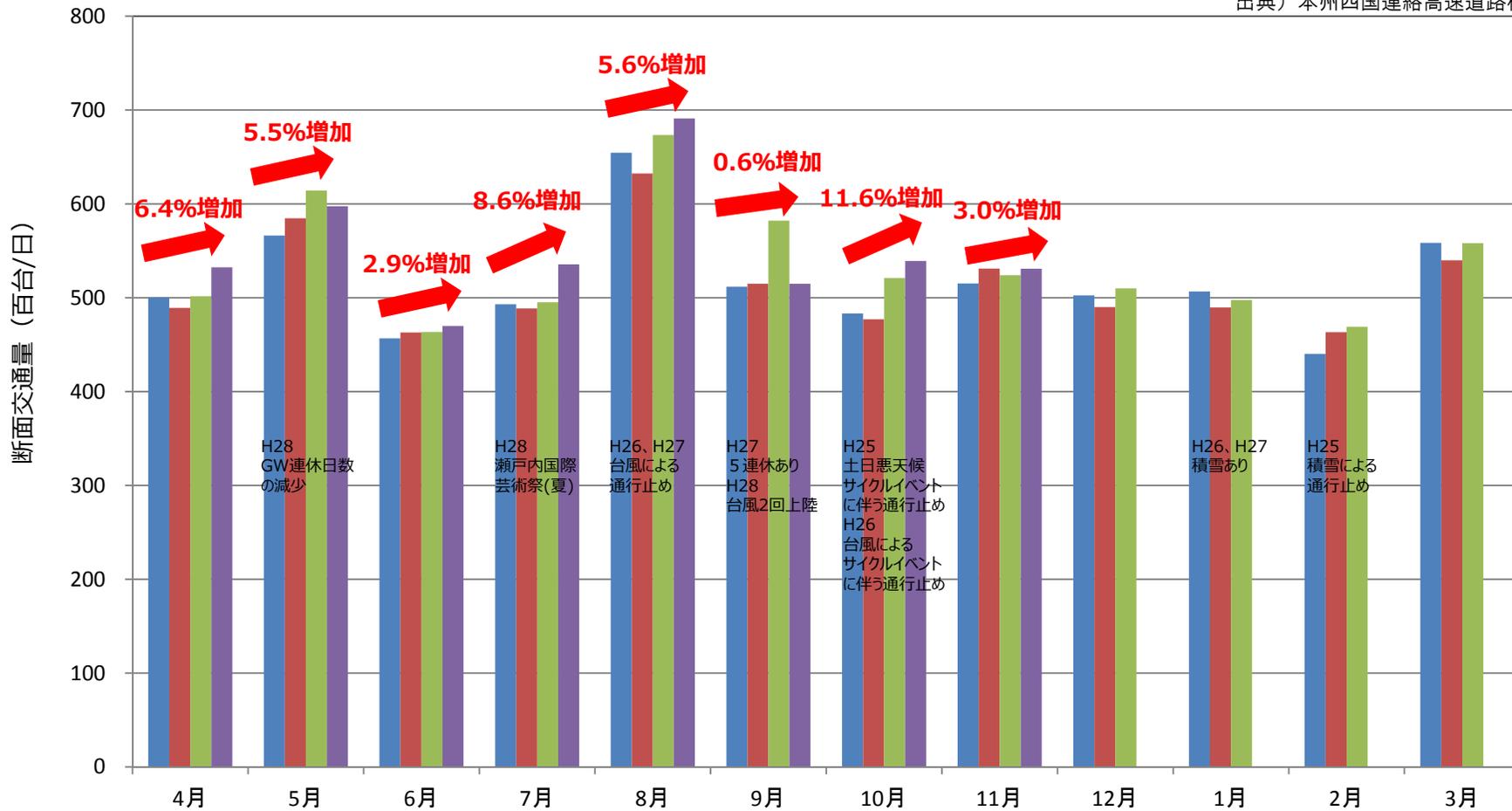
○本四3橋の平成28年度の平均断面交通量は、過去3箇年に対し増加傾向。

【3橋合計の日平均交通量の変化

（■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度）】

※増減率はH28年度/H25年度
（11月～3月、通年はH27年度/H25年度）
グラフの交通量は100台単位で表示しているため、
増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



高規格幹線道路の開通見通し状況（平成28年度以降開通予定）

